安1 安全管理活動分科会①

会 場　インテックス大阪　1号館

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	**①労働安全衛生管理の充実強化と職場環境の構築の推進** 山崎製パン㈱　大阪第二工場　人事課　矢原 拓実	当工場では、災害の未然防止を図るため、先取りの安全活動を展開している。その主な活動が安全パトロールと安全日誌によるヒヤリハット・不具合・困りごと等の吸い上げである。特に現場内の潜在的リスクの低減・従業員の未然防止意識の向上、安全な職場環境の構築を推進している。
9:50 ～ 10:10	**②「線路の歩き方」踏み外すな　リスクのレール** 京王電鉄㈱　鉄道事業本部鉄道営業部井の頭北管区 吉祥寺駅　営業掛兼信号掛　佐藤 建治朗	線路内作業における重大事故ならびにインシデントが発生しており、当職場でも作業従事者が列車を緊急停止させてしまう事案が発生した。マニュアルを実写化し、また他職場からの視点を周知してもらうことで従事者の理解促進と安全意識の高揚を図る取り組みである。
10:10～10:20　休憩		
10:20 ～ 10:40	**③フォークリフト安全対策** **～歩車分離対策の推進～** マツダ㈱　安全健康防災推進部 アシスタントマネージャー　井上 幸世	当社では、フォークリフトによる重大災害を受けて、これまでの看板や表示等による人の注意力に頼った安全対策から、「なくす・減らす・変える、難しければ分離」という考え方で、フォークリフト走行経路の見直しや、荷役場への柵設置を進めてきたのでこれを紹介する。
10:40 ～ 11:00	**④鉄道における重大事象三現の取組みについて** 東日本旅客鉄道㈱　新潟支社 新潟保線設備技術センター　保線安全推進G 主務　樋口 寛樹	弊社「グループ安全計画2028」を踏まえ「想定外を想像し、想定内を拡げる」「仕事の本質と安全のしくみを理解する」「過去の事故事象から学ぶ」ことの3つがこれからの課題と捉えている。本稿では、これらの課題を踏まえ「重大事象三現の取組み」を実施した結果を示す。
11:00～11:10　休憩		
11:10 ～ 11:30	**⑤ノンテクニカルスキル研修について** 関電プラント㈱　プラント事業本部 プラント安全品質部　次長　坂本 浩	工事においてコミュニケーションや錯視といったヒューマンエラーに起因する事故災害が多く発生しているため、人の行動特性に焦点を当てたノンテクニカルスキル研修を実施している。受講者からのフィードバックでは多く気づきがあり役立ったとのことで効果的な研修であると考える。
11:30 ～ 11:50	**⑥ヒヤリハットの意識刷新とセーフティⅡの導入** ㈱特殊高所技術　京都営業所 安全衛生部門長　山脇 裕	ヒヤリハットについて、ネガティブなものという意識そのものを刷新すべく、セーフティⅡの「失敗しないことよりも、成功を最大化する。」という考えのもと、「ヒヤリハットは事故に至らずに済んだ成功体験である」と指導した結果、心理的安全性の向上にもつながる結果となった。
11:50～12:00　休憩		
12:00 ～ 12:30	特別報告 **働き方改革に積極的に取り組むベストプラクティス企業と考える** 大阪労働局　労働基準部監督課 監督課長　嘉副 崇夫 三和建設㈱　執行役員 大阪本店長　川口 秀夫	過重労働による健康障害の防止は全産業に共通する重要なテーマであるが、業界ごとに実情や課題は異なる。建設業でこの分野に積極的に取り組み、昨年度ベストプラクティス企業として厚生労働省大阪労働局長が意見交換した企業と、長時間労働抑制に当たっての課題等について考える。
12:30 ～ 12:35	ご案内 **タイ日系企業安全大会をタイ・バンコクで本年12月に開催** 中央労働災害防止協会　技術支援部国際課	中災防では、タイにおける日系企業の安全衛生活動の支援を主な目的に、在タイ日本大使館、ILOバンコク事務所等の後援・協力のもと、タイ・バンコクにおいて12月18日（木）及び19日（金）の2日間、安全大会（“Thailand-Japan Work Safety Days”）を開催する。日本とタイが協力し、安全衛生の分野で両国が持つこれまでの経験や知恵からお互いに学び合う場とする。その概要について説明する。

安1 安全管理活動分科会①

12:35～13:30　昼休憩55分

13:30 ～ 13:50	⑦記録にこだわる対話型安全パトロールで職場の安全意識を向上させる 日本製鉄㈱ 安全環境防災部　部長　朱宮 徹	安全パトロールでは、課題を指摘するだけになっていないだろうか。見えない課題を見つけるためには作業者との対話が大切である。その対話内容を記録することにより、見つけた課題の解消だけでなくパトロール者の技能向上や作業者の安全意識向上も目的とした取り組みを紹介する。
13:50 ～ 14:10	⑧実効性ある自律的な安全活動とは「陥りがちな点、克服するポイント」 東京電力パワーグリッド㈱ 業務統括室　安全マイスター　安藤 雅彦	2021年度に本社主導の安全活動から災害ゼロに必要な各事業所による自律的安全活動に移行、現状確認結果では、実効性ある安全マネジメントとは言い難い状況であった。そこで、安全マイスターの活動から自律的安全活動を行う際に陥りがちな点、克服するポイントを報告する。
14:10～14:20　休憩		
14:20 ～ 14:40	⑨過去の事故事例から考える、踏切拡幅工事の安全対策について 九鉄工業㈱　福岡支店 土木課　係長　古賀 慎太郎	踏切拡幅工事を行うにあたり、現地調査を行い想定される危険のポイントを抽出し、事故防止計画を立てていた際、過去の事故事例を参考に対策を立てることが有効と考え、実施した。先取の安全対策及び、事故の防止に成功し、無事故・無災害で工事をしゅん功できた。
14:40 ～ 15:00	⑩職場風土の改善活動 トヨタ自動車東日本㈱　岩手工場　工務部 第1設備課　ボデー設備係　工長　齊藤 正宏	2023年1月に挟まれによる災害が発生、特安活動を行い、改善を進めたが8月に同じく挟まれ災害が発生。職場の安全対策の見直しが急務となった。職場全体の安全意識を向上させる為、安全教育強化、疑似体験継続、再現動画活用の3本柱活動を課員全員で推進した事例である。
15:00～15:10　休憩		
15:10 ～ 16:10	講演 巨大災害に立ち向かう ～我が事にする、我々事にする～ 関西大学　社会安全学部　教授　近藤 誠司	自然災害が頻発し、首都直下地震・南海トラフ地震の発生が懸念されるなかで、防災・減災を推進することは、もはや避けて通ることができない喫緊の課題となっている。災害情報の落とし穴にはまることなく、持続的・発展的な取り組みを為している現場の知恵や工夫を共有しよう。
16:10～16:20　休憩		
16:20 ～ 16:40	⑪機械新設据付け工事における安全・衛生対策の取り組み ㈱JR西日本テクノス　設備支店 工事部　工事課　主任　大村 幸輝	当社では機械設備メンテナンスや車両基地の設計、リニューアル工事などの業務に携わっている。このたび敦賀車両基地の機械新設据付け工事にあたって安全衛生面の取り組みや、機械の仕様を決定するにあたり特に配慮したことなどについて紹介する。
16:40 ～ 17:00	⑫緊急時の新たな連絡方法の確立 ～DXの波に乗れ！古びた連絡方法を払拭せよ～ JFEスチール㈱　スチール研究所 福山地区　製銑研究部　山﨑 興洋	現在、カーボンニュートラル実現のために研究設備の新設が活発化しており、災害リスクの多様化に対応した緊急時の新たな連絡方法が必要である。そこで、紙に印刷・掲示されていた複数の防災マニュアルを一元管理するアプリを作成し、アプリから直接連絡できる仕組みを確立した。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	⑬SafetyⅡの考え方に基づく安全活動の取り組み ㈱日本触媒　姫路製造所　環境安全部 環境安全課　課長　峯 一弥	人起因の労働災害防止の為、専門家のご指導の下、SafetyⅡの考え方に基づく安全活動の見直しを行った。失敗に着目する従来の考え方から脱却し、現場第一線で働く人の良い面を伸ばし、自律的な判断・行動を促し、成功を確実にする事を狙う各種取り組みを行ったので紹介する。
9:50 ～ 10:10	⑭安全衛生担当者の人材育成 （一社）日本自動車工業会　安全衛生分科会　Aグループ研究会委員（ダイハツ工業㈱　コーポレート統括本部安全健康推進室　安全グループ　主任）　上辻 文仁	各社安全衛生担当者の高年齢化や、安全衛生・法令・化学物質等の知識を有する人材不足、また安全衛生を担当するうえでの教育体制や人材育成計画もない状況がある。各社の課題、問題点を共有し解決案について提言し報告する。

安全管理活動分科会①

10:10～10:20　休憩		
10:20 ～ 10:40	⑮ペア安全パトロールの取り組みについて 東日本旅客鉄道㈱　首都圏本部 東京機械設備技術センター　主任　深谷 大樹	当職場では、異なる経験値をもつ社員をペアとした「ペア安パト」を実施することで相互の刺激によるレベルアップを目指した取り組みを実施している。これまでの一方向（ベテラン⇒若手）の指導ではなく、異なる目線の気づきの習得や相互のレベルアップを図る取り組みである。
10:40 ～ 11:00	⑯火災・爆発の未然防止 協豊会　安全衛生委員会　2024年度　第3グループ代表　中央精機㈱　安全環境施設部　安全衛生室主幹　竹本 秀彦	製造業の防火・防爆活動で何をすべきか？　高リスクの設備・工程・作業から重点事項をまとめた「火災・爆発を防ぐ18の鉄則作成ガイドライン」、工場火災・爆発事例から教訓をまとめた「他社事例から学ぶ」、爆発の教育資料「爆発とは何か、怖さを知る」の3部構成
11:00 ～ 11:20	⑰安全文化の構築 ～小集団による自主自立を目指せ！～ JFEスチール㈱　東日本製鉄所（京浜地区） 厚板部　厚板工場　GFグループ　鈴木 小春	京浜厚板工場では「自分の職場は、自分達で良くする」を合言葉に独自の安全活動を展開。個々の活動からグループ単位の小集団活動へ移行し、「ものづくり」を通じた本質安全化に取り組んだ。成功体験が好循環を生み、自主自立の小集団による「新たな安全文化」を構築した。
11:20～11:30　休憩		
11:30 ～ 12:00	特別報告 産業安全の現状と課題 厚生労働省　労働基準局安全衛生部 安全課長　土井 智史	産業構造や就業構造の変化に伴い、多様な人材が安心して安全に働ける職場づくりが求められている。労働安全衛生法の改正法案も踏まえ、皆さまの職場で取り組んでいただきたい安全管理活動について厚生労働省の取組とともに紹介する。
12:00 ～ 12:20	⑱安全で働きやすい職場をきずくために、みんなでやろう指差呼称！ RSTトレーナー会（兵庫）　会員　山田 佳克	人間は、ついウッカリ ボンヤリし、ヒューマンエラーを起こす。その対策のひとつとして「指差し呼称」がある。しかし 恥ずかしい 面倒くさいなど様々な理由から定着していない。安全な職場を築くためには、指差呼称の定着が重要と考え職場全員で指差し呼称の定着に取り組んだ。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:40	⑲安全文化診断を活用した労働災害の未然防止に向けた取り組み AGC㈱　環境安全品質本部環境安全部安全衛生チーム 森田 愛理	AGCでは「安全なくして生産なし」のポリシーのもと、安全文化の醸成活動を推進している。活動の一環として、安全文化診断による定量的評価をグローバルに展開している。本社部門として診断結果を基に全社分析に取り組み、各事業部の特徴を捉えた組織課題を抽出した。
13:40 ～ 14:00	⑳形だけだと意味がない！「みんなでフォロー」自分の身も共に働く仲間の身も守るTBM 日本製鉄㈱　瀬戸内製鉄所　阪神地区　薄板部 堺冷延めっき工場　めっき課　EPL-C組　伊田 裕介	我々は自職場の固有リスクに特化したTBMの定義明確化に取組んだ。個々人でTBMの実施に乖離があったことから試行錯誤し創案した働く仲間すべてがTBMの理解度を深める活動「みんなでフォロー」に取組み目指す無災害に前進し組織全体で取組んだTBMの明確化を報告する。
14:00～14:10　休憩		
14:10 ～ 14:30	㉑事故・事象の風化防止の取組み 東日本旅客鉄道㈱　新幹線統括本部 上信越新幹線電力技術センター 新幹線統括本部　主務　千明 大介	上信越新幹線電力技術センターでは、事故や事象の風化防止のため、定期教育資料の工夫、意見交換会の実施、ビジュアル資料の活用などを行い、安全意識の向上と事故防止に努めている。
14:30 ～ 14:50	㉒安全特化型プロジェクト「守破離」活動の推進 ㈱シマノ　コーポレート本部ESG推進部 サステナビリティ推進チーム　次長　伊東 祐之	2018年3月、本社工場にて火災が発生、近隣住民の皆様に多大なるご迷惑をおかけした。原因究明・再発防止と共に、「安全な職場作り、安全な人作り」を推進すべく、同年7月、安全特化型プロジェクト「守破離」活動を開始した。以降7年間の活動成果を発表する。
14:50 ～ 15:10	㉓計画精度向上の取組と現場でのより安全な行動の実践について ㈱レールテック　中国支店米子調査監理センター 技術係　密山 将史	JR西日本管内の土木構造物維持管理を行う当センターでは、ベテラン社員が蓄積している安全に関する情報を可視化し、データベースとして共有する取組を行った。その結果、経験の浅い社員でも様々なリスクを事前に把握し、安全対策を現場で確実に実行することが可能となった。

安1 安全管理活動分科会①

15:10～15:20　休憩		
15:20 ～ 15:50	特別報告 **令和7年度日本化学工業協会 安全最優秀賞事業所 「「TPM」・「龍野三革新活動」を通じて 工夫を凝らし続けた安全活動」** ㈱レゾナック　龍野事業所 事業所長　溝田 和也	当社は「安全は全てに優先する」という行動規範に基づき事業活動を推進している。安全文化の醸成を図るため、TPMや、さらに進化させた龍野三革新活動を通じて事業所や現場での工夫を凝らした安全活動事例を紹介する。
15:50～16:00　休憩		
16:00 ～ 16:20	**㉔AIによる労災発生時の意識の評価、 危険予知支援システム構築** 三井化学㈱　ライフ&ヘルスケアソリューション事業本部 企画管理部　主席部員　倉田 洋行	製造現場に危険予知を支援するアプリの導入を検討したが、より効果的で手軽なものが求められた。そこで、AIが各作業者に合った危険予知を考える問題を選び、答えと過去の教訓をフィードバックするアプリを開発した。このアプリは携帯端末でも使用でき、翻訳することもできる。
16:20 ～ 16:40	**㉕外国人労働者に伝わる「やさしい日本語」 事例検証** ㈱アカデミヤ　代表取締役　朱宮 裕子	外国人労働者が日本語で苦労することなく安全に働けるよう、職場では「やさしい日本語」を使うことが望ましい。現場にやさしい日本語を導入するにあたり、どんな言葉や表現がどのような理由で伝わりにくいのか、現場でよく使われる日本語を例に挙げて紹介する。

安2 安全管理活動分科会②

会 場　**インテックス大阪　1号館**

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	**①大型・重量物を取扱う作業の災害リスク 低減に向けた改善活動** ナブテスコ㈱　精機カンパニー　津工場 製造部　第1製造課　上田 一馬	本職場は最大外径600mm・重量60kgのワークをクレーンで運搬し5工程を行なう環境。2023年労災が5件発生し作業環境の改善が急務。リスクアセスメントを再評価し高リスクの作業が15件抽出、転落や作業導線に問題あり。取り組みの結果14件でリスクレベルDを達成。
9:50 ～ 10:10	**②シナリオのない異常時対応訓練の実施** 東日本旅客鉄道㈱　盛岡支社 盛岡保線設備技術センター　主任　村下 洋輔	社員の世代交代で事故・事象など異常時対応の経験が不足してきている。経験不足を補うため、シナリオ無し･器材の現物使用･指令員参加等、実場面に近づける工夫をして訓練を実施している。参加者個々が実場面を想定して訓練に臨むことで、机上では気づけない学びが得られている。
10:10 ～ 10:30	**③設備災害撲滅のための安全管理活動** ㈱SUBARU　群馬製作所　人事部　安全衛生課 主任　馬場 健仁	群馬製作所では、自動車の製造・実験を行っており、新型車両開発･生産等における設備の変化が著しく行われている。電動化･省人化等のトレンドに対応し、安全基準の見直しが統制部門として要求される。社内安全基準見直しに焦点を当てた、継続した活動の取り組みを説明する。
10:30～10:40　休憩		
10:40 ～ 11:00	**④ヒヤリハットを生かした労働災害未然防止！** 東急電鉄㈱　運輸部　三軒茶屋駅 駅務係　櫻井 圭一	三軒茶屋駅は、地下駅のため支柱が多く死角になる場所があります。出合頭に人とぶつかる等の労働災害が危惧されます。m-SHELL分析で危険要因を特定し、通達文等の文字では伝わり辛いので、イラストを活用して職員に分かり易いように周知を図りました。
11:00 ～ 11:30	特別報告 **Daigasグループのセイフティ３（高齢者・熱中症・DX）** 大阪ガス㈱　人事部安全健康推進チーム マネジャー　宮村 昭彦	Daigasグループ（大阪ガスおよび関係会社）では昨今、①高齢者対応②熱中症対策③DXの活用の３つの重要な命題を抱えている。今年度、それぞれに対応する施策を「セイフティ３」と銘打ち、取り組んでいる内容をご紹介する。

安2 安全管理活動分科会②

11:30～11:40　休憩

11:40 ～ 12:00	⑤転倒災害の予防 AGCディスプレイグラス米沢㈱　安全環境室 安全環境室長　木村 弘人	全国的に転倒災害は増加傾向にあり、当社でもそのリスクが深刻化している。この災害予防を目的とした改善活動を実施した。総勢700人超の全社を巻込んだ活動、社外の整体師との協働で体操設計にも取組み、それを全員に定着することを重視した等、独自性の高い活動である。
12:00 ～ 12:20	⑥見逃すな！職場内の危険箇所！ JR九州電気システム㈱ 大分事業部　チーフ　伊藤 秋絵	職場内巡視において、危険な箇所を発見し、リスク低減対策措置を実施。また、「リスクアセスメントの評価及び対策措置」を一覧表で更新管理して社員へ周知を行うことで安全な職場環境改善に努めている。この改善取組みに対して大分県産業安全衛生大会で「優良賞」を受賞した。
12:20 ～ 12:25	ご案内 タイ日系企業安全大会をタイ・バンコクで本年12月に開催 中央労働災害防止協会　技術支援部国際課 中災防では、タイにおける日系企業の安全衛生活動の支援を主な目的に、在タイ日本大使館、ILOバンコク事務所等の後援・協力のもと、タイ・バンコクにおいて12月18日（木）及び19日（金）の2日間、安全大会（“Thailand-Japan Work Safety Days”）を開催する。日本とタイが協力し、安全衛生の分野で両国が持つこれまでの経験や知恵からお互いに学び合う場とする。その概要について説明する。	

12:25～13:20　昼休憩55分

13:20 ～ 14:10	特別報告 「大阪発・新4S運動」の推進 ～「安全」は人々を満足にさせ、輝く笑顔にします～ 大阪労働局　労働基準部安全課 安全課長　三輪 和生 ㈱竹中工務店　大阪本店 総括作業所長　川嶋 宏和 ダイキン工業㈱堺製作所 安全衛生事務局　原口 雅典	厚生労働省大阪労働局では、労使一体となった自主的安全衛生活動の促進に向け、令和5年度から『大阪発・新4S運動』を提唱している。安全見える化活動、安全Study活動など4つの活動からなるこの運動について、提唱に賛同し取組を開始した企業2社での実例を交えて報告する。

14:10～14:20　休憩

14:20 ～ 14:40	⑦原点に立ち返る安全総点検活動 迫リコー㈱　ものづくりセンター 部品生産室　グループリーダー　佐藤 諭	過去の災害を教訓に安全分野を9つのカテゴリーに分けてリスク低減活動をおこなってきた。ここ1年で多くの災害が発生し、実施していたリスク低減活動では不十分であった。そこで思い込みを排除し原点に立ち返った安全の見直しにより、社内の安全課題の解決を図った事例紹介である。
14:40 ～ 15:00	⑧DXを活用した業務ストレスの改善 西武鉄道㈱　車両部 玉川上水車両所　副所長　牛塚 勝也	さまざまなデジタル技術を活用し、所属員が抱えている業務上の不安要素（ストレス）排除に向け取組んだ活動内容であり、安全に落ち着いて作業できる職場環境の更なる構築を目指した。
15:00 ～ 15:20	⑨人財育成で未来を創る ～保全のプロ育成が工場を守り、会社を変える～ トヨタ自動車九州㈱　安全健康推進部 安全衛生推進室　チーフエキスパート　一岡 利文	生産ラインを支える保全マンの人財育成には何が必要かを考え活動を開始。若手の性格を理解し、それぞれに合った育成方法を検討。従来の保全教育に加え、危険に対する警戒心や安全な作業に重点を置いた取り組みを実施。新規教育も立ち上げ、安全な保全マンの育成に貢献できた。
15:20 ～ 15:40	⑩ヒンジ用フォーク脱着作業に対するリスク低減 コマツカスタマーサポート㈱中部カンパニー三重支店 三重中央サービスステーション　サービス課 メカニックチーム　メカニック　長谷川 泰也	フォークリフトのヒンジ用フォークを脱着する際、フォークをスライドさせる必要があるが、これは重量物を扱うため作業中にリスクが伴う。この問題に対処するため専用の治具を作製し、直接フォークに触れる機会を無くし、災害リスクを大幅に減少させることができた事例である。

15:40～15:50　休憩

安2 安全管理活動分科会②

15:50 ～ 16:20	特別報告 **遊ぼう！創造の枠を超えて！ 「シン・阪神競馬場」 ～ Enjoyお客様エリア大改修～** ㈱大林組　大阪本店 阪神競馬場工事事務所　所長　谷口 慎二	プロジェクト期間の2024年には難題が３つあった。①大阪万博などの大型先行工事による作業員不足、②慢性的な建設業施工管理技術者不足、③時間外労働時間上限規制適用。この逆風のなか「『選ばれる所長』にならないと、人も信望も集まらない」の信念で、種々の方策を実践した。
16:20 ～ 16:40	**⑪新研修センター建設工事におけるゼロ災へのチャレンジと見える化による事故対策** 仙建工業㈱　仙台支店仙台建築出張所 工事主任　髙橋 柊葵	当現場では、現場作業員数及び技能実習生の増加があった為、現場の安全ルール、安全指示を全体周知し、労働災害ゼロを達成することを目標とした。誰が見ても伝わるように見える化の取り組みとして看板表示や区画を行い、それがゼロ災の結果に繋がった。
16:40 ～ 17:00	**⑫現場の声に耳を傾け支援する安全・施工品質管理活動の取組み** ㈱ユアテック 再生可能エネルギー事業部　主任　三浦 忠彦	発電所建設工事は多種多様の業者で進めており、現場代理人より専門分野外工事の安全・施工管理面に関する不安の声が聴かれていた。これを踏まえ現場パトロールを現場の課題等を吸上げる対話重視型とし結果を共有することで対処しやすい環境とする支援に取り組んだ活動を紹介する。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	**⑬顧客視点の５S活動および５Ｓ評価パトロールによる危険リスクの低減** 第一工業製薬㈱　生産本部 滋賀工場　品質管理課　職長　西原 圭介	作業者目線の5S活動から顧客視点の5S活動に変える取り組みを行ってきた結果、今まで気づかなかった危険リスクの改善に繋げることができた。顧客視点の5S活動の取り組み事例概要、その活動を支えるパトロールや改善事例（アプリ開発など）について紹介する。
9:50 ～ 10:20	特別報告 令和7年度 厚生労働大臣安全衛生優良賞 受賞事業場の報告 **大阪・関西万博 太陽の塔から世界最大の大屋根リングへ ～歴史に刻む120社共闘～** ㈱大林組　執行役員 大阪本店建築事業部副事業部長（生産担当） 兼　大阪本店夢洲総合工事事務所　総括所長 高木 昌紀	シンボルは世界最大の木造建築・大屋根リングの2025年大阪・関西万博。シンボル・太陽の塔、お祭り広場の1970年大阪万博から55年の時を超え引きつがれる。新建設はインフラ未整備の離島の地で。120を超える建設会社によりリングでつながる街づくりに挑戦した。
10:20～10:30　休憩		
10:30 ～ 10:50	**⑭鉄道車両のメンテナンスに潜む先取りの安全対策「専用はしごの製作」について** 九州旅客鉄道㈱　小倉総合車両センター 総務課　鉄道係　伊東 萌香	場内ピット線において作業者が隙間のある状態（床面からの高さは約1,950mm）で、階段から鉄道車両への移動が日常化していた。踏み外した場合、大怪我につながる事が想定される。対策として、ピット線専用はしごを製作し、ルール策定を行う事で先取り転落防止を図った。
10:50 ～ 11:10	**⑮物流課５S活動の推進 ～職場一体となった美の構築～** 日産自動車九州㈱　製造部　物流課　角崎 友信	車の部品を運搬・供給を行っている中、部品ラベルが散乱しゴミ化となっている問題で、ラベル拾い時のしゃがみ込み、中腰姿勢で腰を痛める問題が職場の中で発生した。エルゴの評価と『美』を意識した5S活動を織り込んだ安全は5Sからと初心に戻り活動したテーマである。
11:10 ～ 11:30	**⑯検電器チェッカー搭載収納ケースの考案と導入による感電事故防止** 東日本電気エンジニアリング㈱　大宮支社 大宮電力サービスセンター　課長代理　山田 大輔	検電器の使用前点検において、検電器の種類に適応しないチェッカーを使用してしまい、正しい使用前点検ができないリスクがあった。そこで、検電器と検電器チェッカーを1つにまとめた収納ケースを考案し、検電器の使用前点検が確実にできるようにした。
11:30～11:40　休憩		
11:40 ～ 12:00	**⑰新規導入設備の安全衛生指摘ゼロに向けた取り組み** イビデン㈱　生産推進本部安全衛生部　吉田 章紀	従来、設備を導入してからの安全確認を実施するため、タイミングが遅く立上げ納期遅延や変更に伴う追加費用発生などの問題が発生。設備の設計段階、製作段階に安全衛生部が参画し、工場へ設置する前に安全を作り込み、安全衛生指導事項をミニマム化する仕組みを構築し実践。

安2 安全管理活動分科会②

12:00 ～ 12:20	⑱新規部署の立ち上がりに伴う安全衛生の取り組み ㈱エフ・シー・シー　新事業開発部　鈴木 康宰	主事業と異なる設備導入により、重大災害の発生が懸念された。設備稼働までの導入フローを立ち上げた事により、リスクアセスメントや安全立ち合いのタイミングが明確になり安全面が担保された。また設備・有資格者の一元管理から育成計画に反映し人材育成に繋げた事を報告する。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:50	特別報告 空港施設の維持管理における事故・労働災害防止活動について 関西エアポートテクニカルサービス㈱ 安全・研修センター　センター長　松下 徹	関西国際空港および大阪国際空港の旅客ターミナルビルおよび滑走路等の重要インフラの維持管理を担う弊社は、無事故・無災害を目標に定め、安全を最優先に業務に取り組んでいる。今回の発表では、弊社における事故・労働災害防止活動について報告する。
13:50～14:00　休憩		
14:00 ～ 14:20	⑲触車災害防止に向けた取り組み 西武鉄道㈱　電気部 保谷電気所　副所長　清水 俊哉	2021年に連続して発生した列車待避遅れを鑑み、列車監視の重要性を改めて理解し、継続して触車災害を防止していくため、所属員へのアンケートを実施し現状把握のうえ、3つの対策を実施（①危険個所動画作成、②教育動画作成、③過去事例集作成）、効果を検証した。
14:20 ～ 14:40	⑳災害から学ぶ、職場の安全意識の向上 日産自動車㈱　横浜工場　パワートレイン・EVコンポーネント生産技術開発本部　生産技術開発部 工具技術グループ　工長　平田 敏	安全と思っていた作業で発生させてしまった災害から安全活動の振り返りを行い、ベテランと若手の安全意識の違いなど、職場の実態に合わせ、一人ひとりが「目で見て」「考える」安全活動に取り組み、安全意識向上を図った事例を紹介するものである。
14:40 ～ 15:00	㉑現場実態調査会と相互安全点検を通じた取り組みについて 関西工機整備㈱　京都支店 安全品質推進科　主任　岡本 卓也	JR西日本グループである当社は、安全性向上に向け①現地、現物、現認による実態把握、②他箇所に学び、自箇所に活かす、③気づき力の向上を図る、④様々な目線で確認する、を柱に取り組んでいる。これらの要素を取り入れた「現場実態調査会」、「相互安全点検」を紹介する。
15:00～15:10　休憩		
15:10 ～ 15:30	㉒この想いあなたに届け、全国一危険なロジスティクスから無災害1年までの軌跡 ㈱サンゲツ　関西ロジスティクスセンター ロジスティクス部門　ロジスティクスセンター統括室 関西ロジスティクスセンター　甲矢 健二郎	2023年、9カ月で6件の労災を発生させた関西ロジスティクスセンター。全国一危険なLCと思われても仕方ない状況の打開を目指した安全担当者の取り組みや情熱と苦悩の日々、1年間無災害を達成するまでのプロセスを紹介。
15:30 ～ 15:50	㉓若手社員が中心となった安全管理の取組みと心理的安全性の向上について ㈱レールテック　近畿支店 大阪調査監理センター　技術係　中村 淳聖	当職場では経験豊富なベテラン社員が減少し、若手社員が増え労働災害発生リスクが増加している。そこで若手社員主体で安全管理向上の取組みを考察し実施した。またその基盤となるチームの心理的安全性を向上する取組みも併せて実施した。それらの内容を取りまとめて報告する。
15:50～16:00　休憩		
16:00 ～ 16:20	㉔安全に「お・も・い・や・り」のひと手間を 九鉄工業㈱　北九州本店 土木課　係長　古賀 啓暉	都市高速道路の本線規制の為、交通災害が起こる可能性がある。その為、交通災害を防止する取り組みを実施した。取り組みとして電光掲示板を設置することにした。終日「工事規制中」と表示させ、第三者の方に規制されていることを知らせた。その結果、工事を無事に完工出来た。
16:20 ～ 16:40	㉕作業報告におけるホワイトボードのデジタルサイネージ化 東急電鉄㈱　工務部　保線課 梶が谷保線区　技術員　末松 晃	保線区では日々、誰がどの区間で従事しているかを把握するためホワイトボードに記載している。また、その日の作業内容を日々Excelに入力し保存している。ホワイトボードからデジタルサイネージに置きかえることで転記作業が不要となり年間395時間を創出することができた。

安全衛生教育分科会

会 場　インテックス大阪　1号館

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①ヒューマンエラー防止に向けてQRコード付マンガ動画「指差呼称の徹底！」 三井住友建設㈱東京建築支店 安全環境部　部長　松本 俊一	ヒューマンエラー防止へ指差呼称の定着を目指しQRコード付マンガ動画を製作し、ポスター、小冊子、名刺サイズのカードを各現場へ配布。QRコードを読込むと指差呼称徹底を喚起する内容が3分程度のマンガ動画で再生される安全教育用ツールを各職方へ働きかけた活動である。
9:50 ～ 10:20	特別報告　関西電力グループにおける安全文化構築・継承のための安全活動について 関西電力㈱　人財・安全推進室 安全推進グループ　チーフマネジャー　田中亜紀	関西電力グループでは安全を全ての事業活動の根幹と位置づけ「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」との社長宣言のもと、一丸となって安全活動に取り組んでいる。ゆるぎない安全文化構築・継承のため実施している意識醸成活動や安全教育活動を紹介する。
10:20～10:30　休憩		
10:30 ～ 11:30	講演　今、安全の現場に求められるリーダーシップとは？ 帝塚山学院大学 総合心理学部　准教授　秋保 亮太	安全の現場では、不安全行動の改善・防止策がこれまで様々検討されてきた。しかし、効果的なリーダーシップについては理解が進んでいるとは言い難い。本講演では、安全の現場に求められるリーダーシップに関する一連の研究を紹介しつつ、そこから得られる示唆について考察を行う。
11:30～11:40　休憩		
11:40 ～ 12:00	②ルールを順守し命を守るための取組み 東日本旅客鉄道㈱　東北本部 仙台信号通信設備技術センター　主任　橋本 精紀	当職場では、列車と衝突の恐れのある「あわや触車」を多発させ、安全意識の向上が急務となった。納得して安全ルールを守るため、現地で全員が自分事として考え「気づき」を共有しあう「三現主義」の取組みを実施。問題の本質理解から安全意識向上を目指した取組みを紹介する。
12:00 ～ 12:20	③安全意識改革！掲示から3分間動画へ、安全意識向上への挑戦 ㈱LSIメディエンス プロセス技術戦略部環境安全グループ　栗原 直樹	掲示物では伝わりづらく安全意識が低い状況であった。そこで、朝礼やMTGで多くの人に視聴してもらう方法を模索し、アンケートを実施したところ「3分以内の動画」が有効との回答が多数だった。これを受け、毎月4本の3分以内の動画を作成・掲載し、安全意識向上に取り組んだ。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:40	④5S3定を通じたサプライヤーの安全性向上 浜松ホトニクス㈱　電子管事業部電子管管理部業務管理グループ　セクションマネージャー　前川 恭輝	サプライヤーの生産性向上指導の際、安全性と整理整頓の問題を発見。5S3定の指導を行い、社員が自ら改善策を考え行動するように促した。現場改善プロジェクトが発足し3年後には自発的に安全性を考慮したレイアウト変更を実施するまで至った。
13:40 ～ 14:00	⑤ドライブレコーダを活用したフォークリフト安全活動 コベルコ建機㈱　大久保事業所　生産本部 安全衛生環境室　専門班長　吉村 渉	当所では物流にフォークリフトを使う頻度が高く、大きくかつ異形状の運搬物が多い、路盤も傷みやすい、という状況下で荷の落下事故が発生しやすい。重篤な事故を防ぐため、フォークリフトのドライブレコーダー映像による職場での意見交換を通じて安全感性の向上を推進している。
14:00～14:10　休憩		
14:10 ～ 14:30	⑥物流職場における安全衛生に強い人財の育成 日産自動車㈱　本牧専用埠頭　サプライチェーンマネジメント本部日本物流部部品輸出グループ総務人事グループ　中級担当職　伊藤 司	安全な職場の実現に向けて若手の育成は必要不可欠である一方、活動は現場任せとなっていた。安全専門部署のベテランの知識と経験の伝承（育成）と若手が得意とするデジタルツールを活用した安全教育の展開を通じ、個人スキルUPとより安全な職場の実現に近づけることができた。

安全衛生教育分科会

14:30 ～ 14:50	⑦安全関連の要員資格を活用した安全人材の育成 IDEC㈱　協調安全・VisionZeroグローバル推進部 協調安全・Vision Zeroソリューション推進グループ グローバル推進担当マネージャー　前田 育男	機械安全、ロボット安全技術、さらには管理系人材のための安全関連の要員資格を活用した安全人材育成を通して、安全知識と経験豊かな人材を増やすことで、IDECの安全衛生の向上のみならず、社会におけるウェルビーイングの拡大を目指している。その取組みについて紹介する。
14:50～15:00　休憩		
15:00 ～ 15:20	⑧ゼロ災を目指した安全衛生活動の取り組み ㈱アステム　安全推進室　主任　和久 智樹	弊社ではこれまで様々な安全衛生活動を推進し、一定の成果が上がっていたが、ベテラン社員の異動や退職による世代交代が進み、安全文化の継承が上手くいかず、安全衛生意識の低下が露呈した。この問題を改善し、活動を活性化させるため、新たな取り組みを交えた活動を行った。
15:20 ～ 15:40	⑨重点災害再発防止の取り組み ～安全行動の出来る人づくり～ 全豊田安全衛生研究会　安全衛生部会　日野自動車㈱ 安全衛生環境部　安全衛生推進室　安全衛生グループ グループ長　楳澤 和人	トヨタグループ17社で組織する当研究会では、重点災害の撲滅を重要な課題の一つとして活動している。近年は不安全行動に起因する事例が目立つ様になり、研究会の活動を通して各社で取り組んできた安全教育や風化防止の伝承等、安全行動の出来る人づくりについて紹介する。
15:40～15:50　休憩		
15:50 ～ 16:20	特別報告 治療と仕事の両立支援施策の現状について 厚生労働省労働基準局　安全衛生部労働衛生課 メンタルヘルス対策・治療と仕事の両立支援推進室長　富賀見 英城	高齢者の就労の増加や、医療技術の進歩等を背景に、何らかの病気を抱え治療しながら仕事をする労働者は年々増加している。このような中、職場における治療と仕事の両立支援の取組の普及を図るため、国が推進する施策の現状について紹介する。
16:20 ～ 16:40	⑩ICT技術を活用した建設作業の安全確保 ～遠隔操縦および運転者管理技術の紹介～ ㈱大林組　西日本ロボティクスセンター 施工技術部　副部長　羽立 征治	災害復旧など厳しい作業環境や施工の煩雑化など管理業務が高度化する中、建設業に携わる人間の業務を補助する技術としてICT技術の採用が広まっている。今回、汎用建機に取付可能な遠隔操縦および顔認証AIによる建機運転者管理を利用した作業安全確保の手法について報告する。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	⑪2L商品化ライン立上げ後の安全状況 日産自動車㈱　栃木工場 品質保証部品質保証課　工長　清水 勅伸	完成車両を扱う職場で多い『指をドアに挟む』災害について考察します。新生産ラインの立ち上げから2年が経過し、指挟み災害の推移や課内の取り組み、今後の注意点を紹介します。
9:50 ～ 10:10	⑫1S活動から始まった危険感受性向上に不可欠な「行動力」強化の為の実行宣言活動 日油㈱愛知事業所　環境安全管理室　小島 幸也	ヒューマンエラーの削減に5S活動を活用できないかと考えた。最後のS（躾）ができていれば他の4Sも実施できると考え1S（躾）活動に着手した。2009年に始めたこの活動を契機に現在も個人の「行動力」を高めるための実行宣言活動として工夫を加えながら継続実施している。
10:10～10:20　休憩		
10:20 ～ 10:40	⑬協力会社の職長を対象とした人命最優先の対応能力向上の取り組み JR西日本電気テック㈱　金沢支店 金沢メンテナンスセンター　所員　三谷 諒汰	当事業所で発生した転倒労災を契機に、「現場作業の統制・指揮を行う社員（以下、現場指揮者）が倒れた場合」の課題に着目した。作業責任者を対象に、労災発生時の受傷者救護等に必要な取り扱いの認識を把握・分析し、弱点の教育実施により、人命最優先の対応能力向上を図った。
10:40 ～ 11:00	⑭見える化で情報共有をして安全作業 東武鉄道㈱　南栗橋車両管区 七光台支所　主任　秋山 駿介	今までの教育および連絡事項等の伝達手段には紙ベースの資料を配布や掲示をして口頭で伝えていたが、大型モニタ画面やタブレット端末を活用することで内容の見える化を目指すとともに、より記憶に残るような方法で情報の共有や伝達を図ることを研究している。

安全衛生教育分科会

11:00 ～ 11:20	⑮全従業員の意識改革に正面から挑み「KKマッピング」を活かしたゼロ災への取り組み！ 有楽製菓㈱　豊橋夢工場　生産部 生産三課　係長　福井 翼	全従業員を対象に行ったKKマッピングの結果から、従業員を4つのエリアに区分した。エリア別の傾向に合わせ、内容の異なる安全教育を行うことで、安全意識、感受性、仕事に対する集中力、危険を見つける能力の向上を目指し、更なる安全文化醸成に向けた取り組み事例を紹介する。
11:20～11:30　休憩		
11:30 ～ 12:30	講演　やる気を失った「年上部下」を戦力化の秘訣とは ～中高年の活性化こそが要 人事・戦略コンサルタント HRストラテジー　代表　松本 利明	「働かないおじさん」等、中高年に厳しい声が集まる反面、成功している組織では職位を外れても中高年は元気に活躍しています。それは元々や偶然ではなく、共通したコツの実践があります。今回は600社以上の人事や働き方改革を成功に導いた中高年活性化の要諦を具体的に解説します。
12:30～13:30　昼休憩60分		
13:30 ～ 13:50	⑯怖さを体感することで災害減少へ ～日常をいつも通り過ごすために～ （一社）日本自動車工業会　安全衛生分科会 Bグループ研究会委員（日野自動車㈱ 安全衛生環境部 安全衛生グループ　技範）　河端 輝	本研究会は関東圏自動車完成車メーカー7社で構成され、企業の垣根を超えた活動を実施。かけがえのない仲間が災害に遭って痛い思いをしないため、各社の実機体感教育をメンバー自身が体感し、自社にない工夫や教育方法等の新たな気づきを得た活動を紹介する。
13:50 ～ 14:10	⑰参加してわかった！すぐに使える「職長の能力向上教育セミナー」 大阪安全衛生トレーナー交流会　副会長　金谷 誠一	新たに発刊された製造業の「職長の能力向上教育テキスト」により、各企業が能力向上教育をどのように推進展開したら良いかをテーマに、当会の会員が独自の工夫とセンスで作成した教育資料による模擬演技セミナーを年3回、2年かけて開催してきた。その活動成果について報告する。
14:10～14:20　休憩		
14:20 ～ 14:40	⑱ eラーニングによる安全教育「KeY」 東日本旅客鉄道㈱　本社　建設工事部 基盤戦略ユニット（技術戦略・DX） マネージャー　岡本 健太郎	JR東日本は、建設工事部門の1000名を超える社員・施工会社社員を対象とした省令教育を、eラーニングで実施している。受講者管理の視点では顔認証機能を用いた不正防止を図っている。今後は、社内だけでなく鉄道業界全体への拡充を展望としている。
14:40 ～ 15:00	⑲工業高校による安全体感機による安全教育について 岐阜県立岐阜工業高等学校 航空機械工学科　主任　鷲見 暁国	工業高校へ入学してきたばかりの新入生は、ものづくりの経験も少なく、何が怪我につながるのか予想もつかない生徒が年々多くなってきいる。そのような状況にに対して、危険体感機を使用して、安全意識を向上させ怪我を防げるように、岐阜労働基準協会と企業と共に取り組んだ。
15:00～15:10　休憩		
15:10 ～ 16:10	講演　緊急事態に対する事前の対処法を考えよう ～ヒューマンエラー防止のコツとは～ 追手門学院大学　経営学部　経営学科 ビジネス心理専攻　准教授　上田 真由子	緊急時の焦りや慌てによるミスは誰にでも起こりうるものである。本講演では、こうした緊急事態でのヒューマンエラーを減らすための事前の対処について、研究結果をもとに分かりやすく解説する。基本的なヒューマンエラーの知識も身につけられる内容とする。
16:10～16:20　休憩		
16:20 ～ 16:40	⑳単線での踏切鳴動持続における通行車や復旧係員の交通安全及び安全管理向上について 東日本旅客鉄道㈱　盛岡支社　鉄道事業部 設備ユニット　信号通信指令　副長　小笠原 拓矢	単線での踏切鳴動持続時には、場合により復旧係員が現地復帰するまで踏切鳴動が継続する為、通行車等に多大なご迷惑をお掛けしており、対応に苦慮していた。現地復帰に代わり、指令による遠隔復帰扱いを可能とすることで3つの効果を得ることができた内容について報告する。
16:40 ～ 17:00	㉑500kV用導電性ラインマンスーツの開発 ㈱ユアテック　電力インフラ本部　送電部 送電グループ　阿部 芳徳	送電工事において500kV架空送電設備に昇塔し作業する場合、導電性作業服の着用が義務付けられている。当社送電部門では、従来重ね着をしていた導電服を作業服と一体化させ、独自の導電性ラインマンスーツを開発した。本開発品により、作業性の向上に寄与することができた。

機械・設備等の安全分科会

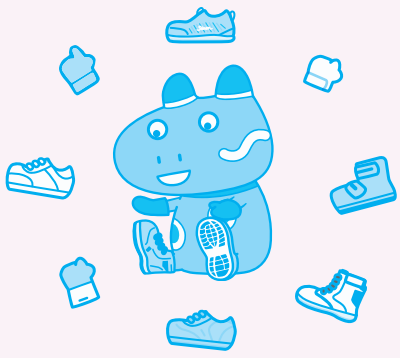
会 場 コンベンションルーム①（ATC O's南館6階）

※隣接する「コンベンションルーム②」をサテライト会場として、中継いたします。
混雑時には、サテライト会場のご利用にご協力をお願いいたします。

機械・設備等の安全分科会／DX等分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください。

9月11日（木） プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①現場ファースト！無線機器を利用した作業効率の高い安全対策 大日本印刷㈱　技術開発センター生産総合研究所 コンバーティング開発第1部サステナビリティ開発課 野地 哲平	無線機器を利用した安全対策の取り組みを、断裁機の事例を基に紹介する。断裁機では機械可動部に指先を挟む労災が発生している。弊社では無線ボタンを組み込んだ治具を製作し、治具を使わないと装置が動かない仕組みを構築することで、作業性を損なわずに労災を撲滅した。
9:50 ～ 10:10	②低圧鋳造職場ゼロ災への道 ～安全意識改革と知識教養～ ㈱テクニカ 加古川製造部　鋳造課　班長　橋本 昭二	理解できるまで繰り返し安全教育を行い、班全員の安全意識改革と知識教養を図り、職場に潜む危険をリスクアセスメントの手法を用いて対策を実施した。また、『ルールは守らせるのではなく、守れる対策！』を合言葉に班員一丸となり取組み、安心・安全・楽に働ける職場を実現した。
10:10～10:20　休憩		
10:20 ～ 10:40	③フォークリフト作業時の災害・事故撲滅活動 ㈱UACJ押出加工安城　業務室　室長　野村 剛司	当社では製品運搬をフォークリフトで行っていて、'16～18年度にかけ荷の落下・転倒等の事故が頻発したため、'19～22年度で運転し易い環境整備や車両のハード対策、人のソフト対策を実施し現在も活動継続。結果'22～24年度までフォークリフト事故ゼロを継続中。
10:40 ～ 11:00	④優等列車における乗務姿勢を維持しやすい運転台設備の研究 東海旅客鉄道㈱　東海鉄道事業本部 神領運輸区　指導車掌　立松 誠也	新型特急車両385系の詳細設計にあわせて、運転士・車掌双方が乗務しやすい運転台設備を研究。自社・他社の運転台や乗務姿勢を調査・比較し、鉄道総研や産業医の見解を踏まえて、運転士にとって理想的な座面可動域と、車掌が乗務しやすい仕様・設備を提案し、設計に反映した。



電子カタログ　YouTube　Instagram

働く方々の手と足を守る、安全と信頼のシモン

Simon CORPORATION　**株式会社シモン**

本社：〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-3-1
https://www.simon.co.jp/

機械・設備等の安全分科会

11:00 ～ 11:20	⑤もう迷わない　形だけのリスクアセスメントからの脱却 日本精工㈱　生産本部 EHS推進室　副室長　原 謙一郎	機械設備の安全化を実現する鍵、それは「機械の包括的な安全基準に関する指針」と「王道のリスクアセスメント手法」です。私たちは安全技術エキスパートを育成し、数々のリスクを克服。その結果、労働災害を撲滅しました。現場での目覚ましい改善を、具体例を交えて提案します。
11:20～11:30　休憩		
11:30 ～ 12:30	講演 機能安全の視点からAI活用を考える （国研）産業技術総合研究所　ウェルビーイング実装研究センター　協働安全知能研究チーム長 インテリジェントシステム研究部門 信頼ロボティクス研究グループ長　藤原 清司	AI技術の進展に伴い、産業用機械・設備への導入が拡大しつつあり、柔軟性や高度な判断機能などの利点が期待されている。一方で、機能安全が求める厳格な信頼性要求との著しい乖離をふまえた活用が求められる。
12:30～13:30　昼休憩60分		
13:30 ～ 14:30	事例紹介 生まれの良い安全な機械設備の導入を目指した取り組み 本田技研工業㈱　コーポレート管理本部 人事統括部　人事部　安全健康推進室 アシスタントチーフエンジニア　金子 勝彦	弊社では機械安全の観点から設備の安全は生まれの良い設備を導入する事が最重要で、実現させるためには、基準・教育・仕組みの３つに観点をあてながら取り組む事で真の機械設備安全の実現を目指しており、その内容を紹介する。
	事例紹介 設備由来リスクによる災害撲滅に向けた新規導入設備のリスクアセスメント キユーピー㈱　生産本部　基盤向上推進部 安全チーム　チームリーダー　伏見 仁志	機械設計や製作上のリスク見逃しで災害の発生を発端に、新規設備導入時のリスクアセスメントの抜け漏れない実施をスタート。リスクアセスメントの手法の理解から開始した活動だが、社内ルール制定と共に定着化し、新規導入設備による災害ゼロを達成。
	表彰事業場 第一回　機械安全推進表彰　表彰式 授与：本田技研工業㈱ キユーピー㈱ ㈱椿本チエイン	中災防が、機械安全に積極的に取り組み他の事業場の模範となる取組みを実施している事業場に対し、表彰状を授与することにより機械安全の普及促進を図ることを目的とする。
14:30～14:40　休憩		
14:40 ～ 15:00	⑥無人搬送車のリスクアセスメント トヨタ自動車㈱　安全健康推進部 ユニット支援室　技術・プロジェクトG　西部 優斗	トヨタ自動車では導入加速傾向にあるAGV/AMRを対象に、製造現場での災害未然防止に向け安心安全に導入できるよう、機械リスクアセスメントの推進及びISO3691-4に追従したルールづくり・導入教育の実施や事例集の発行等を実施した。実践事例と課題を報告する。
15:00 ～ 15:20	⑦グラインダー作業における労働災害軽減に向けて ～グラインダー用保護具の開発～ 東北発電工業㈱　エンジニアリング部技術開発研究室 主査　田中 克佳	当社のグラインダー作業における労働災害は頻発していないものの、繰り返し発生している。受傷部位によっては重大災害の恐れがあるため、グラインダー作業における労働災害の低減や撲滅を目指し、保護具の研究開発に取り組んでいる。この取り組みについて報告する。
15:20 ～ 15:40	⑧「いつもピカピカの設備」を目指して、粉じんが溜まらない設備へ 住友理工㈱　小牧製作所　生産機能本部 生産機能統括部安全衛生部　副参事　角田 幸浩	金属層を含むゴムホースの切断設備は粉じん則の制御風速を遵守しているものの、加工部に切断屑（粉）が堆積してしまい、切断時の火花が引火することがあった。そこで、堆積物の場所や量、設備内の風速を検証し、常にピカピカの設備状態が維持可能となった改善取組を紹介する。
15:40～15:50　休憩		
15:50 ～ 16:10	⑨共に歩む道！！厚板成品クレーンの動線革命 ～制御と工場の懸け橋に！～ JFEスチール㈱　東日本製鉄所（京浜地区） 熱延制御室　山見 海斗	これまで行ってきた成品クレーントロリー点検デッキまでの作業動線の危険性を異動者が新たな視点より問題意識を持ち、改善した活動で、現場で作業する全員が幸せになれる改善を行うべく、３現主義で工場・協力会社と共に連携し安全な作業動線を確保した安全活動である。

機械・設備等の安全分科会

16:10 ～ 16:30	⑩高圧設備近接の信号通信作業における安全性向上 東海旅客鉄道㈱　静岡支社 掛川電気区　電気係　矢吹 風真	高圧設備近接の電気系統作業（信号通信）における感電リスクに着目し、リスクのある設備を洗い出した。該当する設備は移転し、移転不可の設備は新しく創作した注意喚起表示により、リスクの見える化を実施した。以上により高圧設備近接の信通作業における感電リスクをゼロにした。
16:30 ～ 16:50	⑪クレーン　ワイヤー1本吊り防止インターロック施工　安全対策 本田技研工業㈱　鈴鹿製作所　設備生産部 鈴鹿ツーリング課　Assistant Chief Engineer 山住　悠介	天井クレーンにおいて吊りワイヤーの外し忘れによる1本吊りが発生すると、人命に関わる重大事故となる。その際に発現するフック回転現象の原理を解析し検出させる機能を追加した事で、これまで人依存であった作業を設備側で判別しクレーン作業者の安全性を向上させる対策である。

DX等分科会

会 場　**コンベンションルーム①（ATC O's南館6階）**

※隣接する「コンベンションルーム②」をサテライト会場として、中継いたします。
混雑時には、サテライト会場のご利用にご協力をお願いいたします。

機械・設備等の安全分科会／DX等分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①個々人の安全感性・実力強化に向けたデジタル式KY支援ツールの導入 ㈱コベルコE&M　安全衛生部 専門部員　髙次 秀幸	個々人の安全感性・実力強化を目的に、デジタル式KY支援ツール導入に取り組んでいる。社内各事業所間のワーキングGr構築、定着のためDXに慣れた作業Grでの優先的な導入、使用者との課題/要望の共有により、抜けのないリスク抽出と具体的な対策立案で成果を出している。
9:50 ～ 10:10	②安全防災アプリの構築 京セラ㈱　鹿児島川内工場 川内環境安全部　安全防災課　福浦 海聖	当事業場では安全防災情報を様々な方法で発信している。近年のDX化に伴う情報量の多さから作業者は必要な情報に辿り着くまでに時間を要したり、内容の認識が薄くなりがちである。そこで、安全防災情報の共有が行えるプラットフォームアプリ「安全防災アプリ」の構築を行った。
10:10～10:20　休憩		
10:20 ～ 11:20	講演　フジテックのDX戦略 ～全ては安全・安心のために フジテック㈱　専務執行役員 デジタルイノベーション本部長　友岡 賢二	DX戦略の立案には、まず事業目的（Why）、顧客（Who）、事業戦略（What）を深く理解し、その実現をするための道具としてデジタルをどのように使うか（How）を考える必要がある。フジテックのDX戦略立案に至るストーリーの中で「安全・安心」がどのように位置づけられ、その結果どのような成果を導き出したのかについて解説する。
11:20～11:30　休憩		
11:30 ～ 11:50	③安全DX（安全衛生のデジタル技術活用）の取組 ㈱神戸製鋼所　神戸本社　安全・環境部 安全衛生Gr　シニアプロフェッショナル　中西 康次	安全衛生活動にデジタル技術を導入し業務改革（安全DX）を推進中。安全DXは、①人の安全行動を支援する取組、②残存する高リスク作業に対するリスク低減活動、に分け活動を展開。市販ツール、生成AI、AIカメラおよび高感度センサー等を活用し安全衛生活動を変革している。
11:50 ～ 12:10	④社内情報と生成AIを活用した労働安全衛生チャットボット「OSH-CBT」の開発 第一工業製薬㈱　滋賀工場 生産本部　滋賀工場　総括課　下嵜 康裕	リスク感受性強化、文書の抽出・要約、法規制対応の効率化、業務の属人化防止を目的として、社内データと生成AIを連携したチャットボット「OSH-CBT」を開発した。このツールによって、社内情報の共有化を通じて知識や経験の蓄積を図りながら、OSH水準の向上を目指す。

DX等分科会

12:10 ～ 12:30	**⑤情報共有・分析アプリケーションの構築・活用による傷害・物損事故の防止** 東日本旅客鉄道㈱　東京総合車両センター 指導係　坂本 裕二	当センターには関係会社を含む約30の職場があり、それぞれで発生した傷害等の事象が十分に共有されていなかった。今回、社員発意で各職場の事象を集約し傾向分析できるアプリケーションを構築したことで、確実に他山の石で活用できるとともに、安全を先取りすることができた。
12:30～13:30　昼休憩60分		
13:30 ～ 13:50	**⑥Google AppSheetを使った安全管理** ㈱サンゲツ　ロジスティクス部門　ロジスティクスセンター統括室　中部ロジスティクスセンターⅡ チームリーダー　入口 楓	現場で発生しているヒヤリハットの拾いやすい仕組みづくりとして、従来の紙媒体では回収や対応の面で迅速にできない課題があったが、AppSheetによるアプリ管理へと変更することで回収率が上がり提出から対応までもスムーズに実行できるようになった。
13:50 ～ 14:10	**⑦DX化によりヒヤリ・ハット・気がかり提案を活性化！社員が主体的に取り組む仕組みへ** ㈱小松電業所　業務部安全総務課　石塚 兼祥	ヒヤリ・ハット・気がかり提案改善活動に取り組んでいる。当初は紙面にて管理していたが、取り組むうちに管理できない、終わらない、無くすなど多くの課題が露見してきた。回を重ねる度に実施してきたDX化等の取り組みを紹介する。
14:10 ～ 14:30	**⑧伝えたい・繋ぎたい　指導書のアップグレード活動** **～若手の声から始まる新たな挑戦～** ㈱小松製作所　生産本部　郡山工場 生産部生産第一課第三センター班 オートメーションサークル　安瀬 優樹	新入社員を6年ぶりに受け入れることとなり、からくりを用いて安全な場所での作業を可能にし、リスクがある作業そのものを廃止、合わせて作業指導書を新人が見ても危険のポイントがすぐ理解できるように、アップグレードした改善事例である。
14:30～14:40　休憩		
14:40 ～ 15:00	**⑨橋りょう検査における安全かつ効率的な検査手法について** ㈱レールテック　中国支店 山口調査監理センター　技術リーダー　竹崎 智哉	河川上の橋りょうを検査する場合は、検査用の吊足場を仮設し検査を行っていたが、近年ではロープ高所作業を活用した検査件数が増えている。本取り組みでは、橋りょう検査においてロープ高所技術とドローンを組み合わせ、従来手法に比べコスト削減と労災リスクの軽減を実現させた。
15:00 ～ 15:20	**⑩生成AI活用によるRAの質的向上支援** ㈱日立製作所　人財統括本部グローバル安全衛生マネジメント推進本部　安全推進部 主任技師　吉田 聖章	リスクアセスメントは危険源を正しく特定し、効果的な対策の立案が重要である。本報告では、ハイリスク作業に対して生成AIを活用したリスクアセスメントの評価と質的向上のための取組みについて紹介する。

公益社団法人 日本保安用品協会　出版物のご案内

保護具着用管理責任者教育テキスト

2024年8月30日発行（第2版）
フルカラーA4版　203頁
定価：2,750円（送料別、消費税込）

本書は、呼吸用保護具・保護めがね・保護手袋及び防護服に関する基礎知識と使用する際に必要な事柄を分かりやすく解説しております。
　保護具着用管理責任者養成時や当該責任者が職務を行ううえでお役立ちできる内容となっております。

フィットテスト実施マニュアル

2021年5月25日発行（第1版）
フルカラーA4版 52頁
定価：880円（送料別、消費税込）

本書は、フィットテストの実施に向けて、フィットテストの実施者の方が理解しておかなければならない事項をまとめたものです。
　フィットテストの実施にあたり考慮するべき事項をはじめとして具体的な実施方法について解説しております。

【日本保安用品協会HP】（左記ＱＲコード）又は【中央労働災害防止協会・安全衛生図書・用品販売サイト】より購入可能です。（ただし、『フィットテスト実施マニュアル』については日本保安用品協会でのみ購入可能）

DX等分科会

15:20 ～ 15:40	⑪自動化設備における、居残り労働災害に対するリスクと対策 ㈱小森安全機研究所 西日本支店　所長　長峰 天太	昨今、工場内の省人化に伴う自動化設備（産業用ロボット、搬送装置）の普及が広がっている。生産性の維持・向上は見込めるものの、従来の手法では安全性の担保が難しくなるケースがある。弊社が取り扱うセンサーは電波という新しい方式を採用。次世代自動化設備の安全を担う。
15:40～15:50　休憩		
15:50 ～ 16:10	⑫協調安全/Safety2.0を実現する新たなAIセンシングデバイスとその導入事例 IDEC㈱　協調安全・VisionZeroグローバル推進部 Safety2.0事業推進　中原 大輔	労働環境における安全・安心・ウェルビーイングの実現は、新たな技術革新とそれを導入した安全方策が必要不可欠である。協調安全による安全性と生産性の両立を目指した新たなAI技術及びセンシング技術の提案と、それらを用いた協調安全ロボットシステムの効果について報告する。
16:10 ～ 16:30	⑬市民開発によるアプリを活用した安全活動のDX化 東日本旅客鉄道㈱ 高崎保線設備技術センター　主任　小野関 翔	予算の課題やIT人材不足の中、ローコードツールにより非IT人材でも本格的なアプリを開発できる市民開発が可能となったことから、自職場で一般社員がMicrosoft Power Platformを活用して作成したアプリによる改善事例を紹介する。
16:30 ～ 16:50	⑭生成AI活用の実績と未来への展望 ～労働災害ゼロを目指し生成UIの活用～ 東京電力ホールディングス㈱ 安全推進室　専任課長　大後 茂雄	生成AIを活用した労働災害防止活動の効果検証及び今後の活用を考察する。効果検証は、アプリ利用者の総合的な満足度や安全文化の醸成程度、労働災害発生数について確認を行った。また、検証結果を踏まえ労働災害をゼロにするためAIの新たな活用（生成UI）について提案する。

化学物質管理活動分科会

会 場　**ATCホール　Aホール［AI］（O's南館地下2階）**

化学物質管理活動分科会／労働衛生管理活動分科会 会場に
「近畿・大阪センター 無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください。

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①神戸製鋼グループにおける衛生管理向上に向けた取り組み ㈱神戸製鋼所　神戸本社 安全・環境部　安全衛生グループ　髙見 悠希	衛生管理向上を図る為に、3つの観点（管理強化・人材育成・維持管理）で取組みを推進している。特に、自律的な化学物質管理の取組みとしてRAシステム構築をはじめ、全社ガイドラインや教材の作成、チェックリスト等を展開してきた。具体的な取組み事項や成果に関して発表する。
9:50 ～ 10:10	②マスクフィットテスト導入による適正なマスク選定と装着、そして作業者意識の変革へ IDEC㈱　滝野事業所　グローバル生産統括部 ASIA生産本部　Vision Zero安全推進室 Vision Zero安全推進担当兼　滝野・福崎生産部 滝野事業所　滝野総務チーム　リーダー　松本 英典	「溶接ヒューム」の規制を機に、IDECでは2022年度より防じんマスク及び防毒マスク使用者のマスク装着技能の向上を目的に「マスクフィットテスト」を導入している。本発表では、3年間の活動を通して得られた運用のノウハウと技能向上だけではない効果について紹介する。
10:10 ～ 10:40	特別報告　最新の化学物質規制の動向について 厚生労働省　労働基準局　安全衛生部 化学物質対策課長　中野 響	令和7年1月、厚生労働省の労働政策審議会は、労働安全衛生法等の一部を改正する法律案要綱を答申した。要綱では、危険有害性情報の通知制度（SDS）の履行確保措置や、化学物質の営業秘密情報の扱い等も含まれている。これらの措置を含め最近の化学物質管理の動向について紹介する。

化学物質管理活動分科会

10:40～10:50　休憩

10:50～11:10

③新リスクアセスメント手法　AIによる暴露限界値の計算

大和ハウス工業㈱　本社　技術本部
安全統括部　戦略グループ　課長　森 朋仁

化学物質のスプレー缶を、仕事で1日一吹きする程度でも、呼吸器用保護具を使用するRA結果となることが多い。しかし、この量で呼吸器用保護具を使う事は現実的ではない。新しい考え方として、暴露制限値をまったく超えない事をAIで立証する。その手法を発表致します。

11:10～11:30

④粉じん職場作業環境改善の取り組みについて

AGC㈱　AGC横浜テクニカルセンター
環境安全部　渡部 遥平

弊社事業所では、事業の1つとして建築用ガラスの生産を行っており、珪砂などの粉体原料を扱うことから作業者への負荷が高い職場が存在する。本活動では設備の現状把握として集塵機及びダクトの調査を行った。その後、設備改善を行うことで作業環境中の粉じん量低減を実現した。

11:30～11:50

⑤化学物質管理ネットワークの構築と管理ツールの開発・運用

JX金属㈱　茨城事業所
環境安全部（磯原）　技師　梶山 純

昨今求められる化学物質の自律的な管理のため、当事業所では、kintoneやSharePointといったクラウドサービスを活用しながら、自律的管理を行うための基盤となる「化学物質管理ネットワーク」を構築した。具体的な取り組みの例として大きく5つを紹介する。

11:50～12:00　休憩

12:00～12:20

⑥わが社における化学物質リスクアセスメントの取組みについて

広成建設㈱　本社　施工本部
安全推進室　担当課長　迫田 雅史

労働安全衛生マネジメントシステム導入に伴い、化学物質リスクアセスメントを実施する中で、管理手法としてクリエイトシンプル手法を採用し、全社的な教育とキントーンを活用したデータ管理を行い、化学物質に対する知識の向上と情報共有を実施した。

12:20～12:40

⑦濃度基準値設定物質の個人暴露測定ケーススタディ

㈱神戸製鋼所　茨木工場　溶接事業部門
生産センター　安全・環境室　課長　藤河 研次郎

社内で濃度基準値設定物質の個人暴露測定を進めるなかで、作業時間の考え方など、どの様に扱うべきか迷うケースが多々あり、都度検討しながら測定を進めてきた。このように判断に迷ったケースを取りまとめたものをケーススタディとして報告する。

12:40～13:40　昼休憩60分

13:40～15:40

シンポジウム

「化学物質の自律的管理を推進する」

基調講演「胆管がん問題を教訓にした弊社の取り組み」
㈱SANYO-CYP　代表取締役社長　兼　CEO　山村 健司

パネルディスカッション

パネリスト　旭化成㈱　延岡支社　環境安全部　主査、IOHA認証日測協認定オキュペイショナルハイジニスト　濱田 泰将
日東電工㈱　基盤機能材事業部門　管理統括本部　環境安全部　企画課　夏井 正頼
中央労働災害防止協会　労働衛生調査分析センター　副所長　竹内 靖人
座長　中央労働災害防止協会　近畿・大阪安全衛生総合サービスセンター　技術顧問　圓藤 吟史
コメンテーター　㈱SANYO-CYP　代表取締役社長　兼　CEO　山村 健司

胆管がん問題を教訓に、当該企業は“従業員と家族の健康を守り、会社も成長していきたい”を目標に活動してきた。業種は異なるが、二社は化学物質の自律的管理に取り組んでいる。それらの活動を紹介するとともに、危険・有害性リスクを“見える化”するツールを紹介する。

15:40～16:10

特別報告

化学物質の危険有害性に対応したリスクマネジメント

中央労働災害防止協会　近畿・大阪安全衛生総合サービスセンター　技術顧問　圓藤 吟史

“法定非該当物質は安全な物質”という理解は間違っているので、法改正で事業者にリスクアセスメントを義務づけ、規則と通達で誘導した。その結果、“規則と通達に従えば安全”との誤解が生じている。ここでは、危険有害性に対応した実践的な自律的マネジメント方策を紹介する。

16:10～16:20　休憩

化学物質管理活動分科会

16:20 ～ 16:40	⑧JX金属グループにおける化学物質管理への取り組み JX金属㈱　環境安全部　技師　藤井 道太郎	当社では、化学物質の自律的な管理に関する労働安全衛生法関係法令改正への対応についてグループ全体で一丸となって取り組んできた。本社環境安全部を中心に当社グループにおける課題の把握・教育・体制構築及び管理の深化のために進めた取り組みの成果や今後の展望を報告する。
16:40 ～ 17:00	⑨マスクフィットテストの結果の傾向について (公財) 福島県労働保健センター 検査課　課長　原 大	2023年より1年に1度義務化されたマスクフィットテストに健診業務の一環として携わり、約500名の方のテストを行った。テストの結果から傾向とマスクフィットテストを行う実施者の役割として感じたことを報告する。

ATCホール（O's南館地下2階）にて
「中災防 図書・安全衛生用品販売 即売コーナー」開設！
安全衛生図書・用品を1割引きで販売します。

労働衛生管理活動分科会

会 場　ATCホール　Aホール［AⅠ］（O's南館地下2階）

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

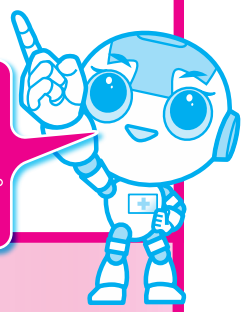
9:30 ～ 9:50	①軸箱丸洗い洗浄装置の開発、導入による3K作業の削減について 近畿日本鉄道㈱　大阪統括部　工機部 検修課　五位堂台車職場　助役　宮崎 達也	鉄道車両の分解整備の車軸軸受けは、付着した塵埃やグリスの影響で3K作業となり、若年者からも暗に敬遠されがちな作業である。今回、軸箱を丸ごと洗浄するという画期的な発想を基に、軸箱洗浄丸洗い洗浄装置をメーカーと約5年にわたり共同開発、導入しこれらを根本的に解決。
9:50 ～ 10:10	②近隣大学との共同研究による製造現場における躓き・転倒災害未然防止 本田技研工業㈱　浜松製作所 安全衛生課　労働衛生担当　原田 開	近年、事業所内で増加傾向にあった躓き・転倒災害の発生を抑制するため、既に事業所と交流がある近隣大学の協力のもと、従業員の体力測定結果の統計分析を実施し、躓き・転倒災害未然防止の対策を実施したので報告する。

大阪大会 図書販売のご案内

中災防のイチオシ!!

労働衛生のしおり 令和7年度…定価 **880**円
人を育てる交通安全学…定価 **2,970**円
化学物質のリスクアセスメント実践ガイド…定価 **770**円
タイ語版　指差し呼称で安全職場…定価 **495**円

1割引きで販売中！
ATCホール・地下2階共用部（9/11～12）、インテックス大阪 6号館（9/10～12 ※緑十字展）で販売コーナーを設けております。ぜひお立ち寄りください。



著者講演等

朱宮 徹氏 著「もっとうまくいく安全活動16選」…*9/11*(木) 13:30～ 安全管理活動分科会①
圓藤 吟史氏／山村 健司氏 著「胆管がん問題！それから会社は…」…*9/11*(木) 13:40～ 化学物質管理活動分科会
伊藤 正人氏 著「産業医の処世術 三十六計」…*9/12*(金) 12:00～ 労働衛生管理活動分科会
堤 明純氏 監修「職場の健康づくりを支援する」…*9/12*(金) 14:50～ メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

労働衛生管理活動分科会

10:10 ～ 10:40	特別報告 **最近の労働衛生に関する動きについて** 厚生労働省　労働基準局　安全衛生部 労働衛生課長　佐々木 孝治	職場における労働衛生対策は、労働者の高齢化や女性活躍等を受けて大きく変化している。メンタルヘルス対策や何らかの疾病を抱えながら働いている労働者への治療と仕事の両立支援、女性特有の健康課題への対応など、労働衛生行政の現状を紹介する。
10:40～10:50　休憩		
10:50 ～ 11:10	**③衛生スタッフの育成** 日本製鉄㈱ 安全環境防災部安全推進室　主幹　安藤 真樹	労働衛生を専門とするスタッフは各事業場に1～2名であり、その専門性から自律的な業務推進が求められる。一方で、安全衛生部門の育成環境や現場の衛生管理水準は事業場毎に異なり様々である。これまでの経験から衛生スタッフを効果的に育成する方法を提案する。
11:10 ～ 11:30	**④熱中症予防意識の調査と効果的な予防対策手法の検討** ㈱ユアテック　技術開発センター 係長　草刈 洋行	弊社では、社員や熱中症発症者への意識調査結果を共有し、暑さ指数（WBGT）に応じた休憩時間の確保やコミュニケーションの徹底、暑さ対策製品の配備などの対策で熱中症を防止している。今回、意識調査結果を基にした予防対策手法を検討したので、その結果を紹介する。
11:30 ～ 11:50	**⑤力いらずにロール清掃を！オイラー後ピンチロール清掃作業の安全化** JFEスチール㈱東日本製鉄所（京浜） 京浜地区冷延工場リコイル職場　リーダー　高山 光晴	ロールの点検、清掃で手でロールを回しているが一カ所だけ非常に回転が重いために転倒の危険があり重筋作業でもあるため改善に取り組んだ。AIを利用し適切な治具を見つけ安全化と重筋作業の解消を達成。作業困難だった高齢者、女性も安全に簡単に回せるようになった。
11:50～12:00　休憩		
12:00 ～ 12:30	特別報告 **産業保健スタッフと安全衛生・人事労務スタッフの効果的な役割分担のTips** ㈱カネカ　大阪工場 健康相談室　産業医　伊藤 正人	就業措置や休復職判断において、産業医等の産業保健スタッフと安全衛生・人事労務スタッフが一定のスタンスで役割分担し、緊密に連携することが極めて重要である。労働者を「適正なあるべき姿」へ導くため、決して教科書に記載されていないTipsについて講演する。
12:30～13:30　昼休憩60分		
13:30 ～ 14:20	特別報告 **がんと治療の両立支援に向けた働き続けやすい職場作りのポイント** （独）労働者健康安全機構　大阪産業保健総合支援センター　副所長　立岩 範彦 興國車輌㈱　代表取締役社長　禿 裕隆 ㈱トラストチャーム　代表　藤吉 奈央子	就労年齢が上昇する昨今、働く仲間ががんを罹患する事は以前ほど珍しくない。がんになっても働ける環境を企業が創造し提供する事は、がんはもちろん、他の病気や、介護など制約が発生した際にも共通して活かせる。事例と共にポイントを紹介する。
14:20～14:30　休憩		
14:30 ～ 14:50	**⑥命を繋ぐ社内救命教育再編と今後の課題** トヨタ自動車㈱　安全健康推進部 健康推進室　三宅 郁美	バイスタンダーによる初動対応は、予後を大きく左右するため、救命教育の普及とAEDなどのハード対策を推進してきた。コロナ禍を経て、働き方の変化に対応した救命教育の再編と、ダイバーシティや大規模災害時対応を課題と捉え、共助できる職場づくりを目指した活動を紹介する。
14:50 ～ 15:10	**⑦安全･安心･健康のトータルコーディネート、女性衛生管理者チームの自走の軌跡** ㈱LIXIL　石下工場　製造1課　大山 一美	私達は、心と体の健康を意識した職場づくりを目指す、女性中心の自走型の衛生管理者で構成したチームである。7年前から衛生面の改善を始め1年前からは安全面の改善にも取り組んでいる。働きやすさに拘った全従業員が安全・安心・健康に働ける職場づくりの事例について紹介する。
15:10～15:20　休憩		
15:20 ～ 15:50	特別報告 **労働関連法・施策の効果検証方法と研究動向の解説** **―割増賃金率の上昇効果を例に―** （独）労働者健康安全機構　労働安全衛生総合研究所　社会労働衛生研究グループ 研究員　加島 遼平	労働に関連する国の法令や施策は新設され続けているが、その効果はよく知られていない。本公演では、「割増賃金率の引き上げ」が長時間労働者割合等に及ぼした影響に関する研究成果を例に、法律・施策の効果検証の方法を解説する。また、効果検証を行った研究動向の解説を行う。

労働衛生管理活動分科会

15:50～16:00　休憩

16:00 ～ 17:00　パネルディスカッション

手袋の使用可能時間を透過試験で確認しよう ～化学防護手袋研究会の活動紹介～

座　長　産業医科大学　作業環境計測制御学講座　教授　宮内 博幸

パネリスト　化成品工業協会　技術部長　上村 達也

オリンパスメディカルシステムズ㈱　八王子事業場　技術開発センター　宇津木

生物学評価解析技術　安全衛生・環境法規制担当　福岡 荘尚

(学) 東京理科大学　環境安全センター　技師　宮田 昌浩

㈱日本触媒　姫路製造所　環境安全部　環境安全課　主任部員　右田 雄作

化学防護手袋研究会は化学防護手袋の簡易透過試験により事業者が自ら透過開始時間を確認し適切に手袋を選択、使用する活動を支援している。特別報告では各講演者からケミカルセンサーや検知管等を用いた測定事例を紹介すると共に研究会の支援活動についても説明し理解いただく。

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

会 場　ATCホール　Aホール［AⅡ, AⅢ］（O's南館地下2階）

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①パーパスからの健康経営　キャリアコンサルタント導入による様々な両立支援 ㈱SANYO-CYP　管理部　伊倉 妙子	弊社発端の職業性胆管がん問題解決後、全社員で「定年退職時にこの会社で働いて良かった」と思える会社を目標に取組み、健康経営優良法人ブライト500認証会社へ、さらなる、働き方改革、両立支援を実現へキャリアコンサルタントを活用した取組みの成果と、活動内容を紹介する。
9:50 ～ 10:10	②「運動機能分析装置」を用いたエイジフレンドリー体力測定と事後フォローについて 住友重機械工業㈱　愛媛製造所 西条工場　健康相談室　保健師　川中 康子	当社西条工場では、エイジフレンドリーガイドライン（厚生労働省）に倣った体力測定を実施していた。2024年度からは「運動機能分析装置」を用いた体力測定を実施し、加齢に伴う身体能力の特徴を踏まえた事後フォローを始めている。これまでの経緯と考察を報告する。
10:10 ～ 10:30	③愛知環状鉄道の乗務員職場における睡眠管理の導入 愛知環状鉄道㈱　運転区　総括助役　森川 卓実	不規則かつ不定形な勤務に従事する鉄道の乗務員における眠気対策は、長年の重要な課題である。愛知環状鉄道では乗務員の眠気対策として令和元年度より科学的根拠に基づいた生活リズム調整法の定着に取り組むとともに、仮眠環境の改善や行路中の短時間仮眠の導入も開始した。
10:30～10:40　休憩		
10:40 ～ 11:00	④全員参加で進める！ポジティブアプローチによるいきいき職場づくり活動 トヨタ自動車九州㈱　安全健康推進部 健康推進室　保健師　大場 瑛里加	従来の職場環境改善は、健康リスクの高い一部の職場だけの活動というネガティブなイメージがあった。そこで、指標や支援ツールの工夫を行うことで、職場の資源（強み）に着目した全員参加の活動へ転換するとともに、自律的活動は困難な職場に対する支援を整備した内容を報告する。
11:00 ～ 11:20	⑤働く女性の健康課題「アンケート」による実態把握 TGロジスティクス㈱　管理本部 人事・総務室　主監　祖父江 まゆみ	2023年度から「女性の健康週間」を設けるなど、女性特有の健康課題に取り組み始めたが、自社の“課題”を把握できていないことから、全女性社員へアンケートを行った。会社制度の活用度や女性特有の健康問題が就業にどの程度影響しているかなど、調査結果を報告する。

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

11:20 ～ 11:40	⑥単調作業時の精神負荷軽減を目指して ～音楽を聞きながら作業できる仕組みづくり～ ダイキン工業㈱　テクノロジー・イノベーションセンター データ活用推進グループ　田中 斉	単純作業の繰り返しがストレスに感じるという課題に対して、音楽を聞くことで精神的にポジティブな状態へと促すことが可能か生産ラインで検証を行った。現場でも簡単に運用可能な音楽再生アプリを開発し、生産中に音楽を聞きながら作業できる仕組みとして一部工程に導入した。
11:40～11:50　休憩		
11:50 ～ 12:20	特別報告 職場のコミュニケーション課題とは 職場のコミュニケーション活性化検討委員会報告より 中央労働災害防止協会　健康快適推進部 研修支援課係長　川又 華代	令和6年度厚労省補助事業「職場のコミュニケーションに関する検討会」において、事業場・労働者（社会人経験5年未満若年層・40歳～54歳管理職層）に対しコミュニケーション実態調査を行った。それぞれが求める職場におけるコミュニケーションに関する考察を報告する。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:40	⑦今より楽しく！今より健康に！AKスマートプロジェクト アイシン軽金属㈱　安全健康環境部 健康推進グループ　健康推進主席専門員　今度 悠樹	健康経営取得に向け、7つの生活習慣（朝食・間食・喫煙・飲酒・運動・睡眠・BMI）改善を従業員全員に意識付けていく取り組みとして『AKスマートプロジェクト』を立ち上げた。健康推進プロジェクトとし、全従業員が自身の健康を知り、健康考動へつなげる取り組みである。
13:40 ～ 14:00	⑧職場発信によるwell-being実現への取り組み 小田急電鉄㈱　喜多見乗務所　運転士　森實 政宗	健康増進とコミュニケーションの活性化を目的に、well-being odakyuPTを結成した。主な活動として職員参加型基礎体力向上体験会を実施している。当初は参加者が少なく苦労したが、産業医と連携した運動プログラムを実施した結果、500名以上の参加を得た。
14:00 ～ 14:20	⑨定期健康診断における精密検査・再検査受診率100%への取り組み 中部電力㈱　本店　安全健康推進部 健康増進グループ　保健師　清水 寛子	2019年度から当社は人間ドックによる定期健康診断を行っている。健康診断結果をもとに全従業員へきめ細かな保健指導を行い、精密検査・再検査の受診率は94%まで達した。今回、早期発見・早期受診によりアブセンティーイズム改善につながった当社の取り組みを報告する。
14:20～14:30　休憩		
14:30 ～ 14:50	⑩勤怠情報を用いた精神疾患予兆把握 ㈱日立製作所　人財統括本部グローバル安全衛生マネジメント推進本部　健康経営推進部 主任　竹内 勝彦	近年精神疾患休職者は増加傾向を示し、この対策は日本企業においては喫緊の課題となっている。そのため、当社では過去5年間の勤怠情報と精神疾患休職者情報から多変量解析を用いて精神疾患休職者予測式を作成し、休職を減らす取り組みをおこなったので報告する。
14:50 ～ 15:10	⑪体組成測定を用いた健康増進活動　栃木工場は単なる肥満じゃない 日産自動車健康保険組合 栃木地区健康推進センター　赤羽根 浩	日産自動車栃木工場従業員の肥満率が年々上昇、肥満率の対策で体重記録会や運動セミナー等を行ってきた。しかし、活動のマンネリ化や従業員のやらされ感もあり、改善は見られなかった。そこで体重の評価から体組成の評価を行い、従業員のやる気を引き出す活動を取り入れました。
15:10 ～ 15:30	⑫組織的なアプローチに基づく外部機関とのコラボプロジェクト実施の検証 東日本旅客鉄道㈱　水戸健康推進センター 副主任看護師　保健師　小松 美保	最新知見や測定技術を持つ外部研究機関とコラボした健康増進の取り組みは、組織上層部への説明を丁寧に実施し十分に理解を得て参加しやすい取り組みとなった。普段測れない測定や健康指標、外部との遠隔コラボが参加者のモチベーションを上げ、非常に良い結果をもたらした。
15:30 ～ 15:50	⑬「ストレス度:低、活性度:高」の良好職場の共通特性と社内での展開状況 コニカミノルタ㈱ 人事部健康推進グループ　武井 雄一	「組織の活性化、生産性の向上」に向け、新職業性ストレス簡易調査票の考え方に基づき、定量かつ定性の両面から良好職場に関する調査を実施した。「ストレス度：低、活性度：高」である職場の共通特性とは何か、その分析結果をどのように活用しているか、について報告する。
15:50～16:00　休憩		

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

16:00 ～ 17:00	講演 この生き方に決めた！ ～阪神・淡路大震災が決めた落語家への道 落語家　桂 福丸	高校時代に被災した阪神淡路大震災の現場で起こったこと、また極限状態で感じた思いが今の生き方につながっていることを語る。また、厳しい環境にいる際は笑いとユーモアによって心を健康に保つことが一番重要であるということも感じていただく。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	⑭鉄道会社における女性がん検診受診率向上の取り組み 阪急電鉄㈱ 健康管理センター　保健師　藤井 香帆	当社では、就労世代において罹患率が高い、乳がん・子宮頸がん検診の受診率向上に向け様々な取り組みを実施してきたが、受診率は低迷していた。そこで、受診環境整備、教育啓発等に取り組んだ結果、大幅に受診率は向上した。その取り組みについて報告する。
9:50 ～ 10:10	⑮健診時血圧高値者への家庭血圧測定導入とそのフォローアップ効果 トヨタ自動車㈱　安全健康推進部車両支援室 高岡支援G　岩堀 葵衣	高血圧治療ガイドライン2019では家庭血圧の重要性が強調されており、弊社の健康診断でも診察室血圧と家庭血圧を併せて評価する案が出された。実運用に際し現場の懸念が示される中、対象者へ「2週間の家庭血圧測定と結果提出の依頼」を実施したので、その結果を報告する。
10:10 ～ 10:30	⑯社内Well-being研修の設計 ㈱島津製作所　人事部 健康・安全センター　主任　春藤 行敏	当社ではPERMAの考えに基づき、テーマ別のWell-being研修を実施している。本研修は参加者同士で対話を行うことや自分の気持ちについて考えることを通し、自己発見、行動変容につなげることを狙いとしている。今回、本研修の取り組み内容を報告する。
10:30 ～ 10:50	⑰笑顔とシンクロで職場を元気に！みんなで取組む健康経営 パナソニックインダストリー㈱ 総務部　健康経営推進課　主務　鯨尾 良恵	わが社では従業員の平均年齢上昇に伴い、筋力・体力低下による労働災害が課題に。運動習慣を促進するため、全27拠点で職場体操を就業時間内に実施し、正しく効果的に実践してもらうためコンテストを開催。コミュニケーション活性化と運動実践者の増加に成功。
10:50～11:00　休憩		
11:00 ～ 12:00	講演 メンタルヘルスと「生きた法」 ～基本的な対応モデルと3つの注目すべき判例～ 近畿大学　法学部　教授　三柴 丈典	演者が開発してきた「生きた産業保健法」は、法律を形式的に捉えてただ強制するのではなく、人間や組織という生きもの相手に、その趣旨の実現を図ろうとする力学だと理解する。この視点で、基本的な対応モデルと最近の重要な3つの裁判例の示唆を汲む。
12:00～12:10　休憩		
12:10 ～ 12:40	特別報告 メンタルヘルス不調の未然防止について「待つ」から「動く」相談窓口設立・その活動 ㈱竹中工務店　大阪本店 WLB・ダイバーシティ推進担当　京谷 紀子	メンタルヘルス未然防止のため、相談を「待つ」だけでなく「動く」相談窓口を設立。積極的に職場に出向く等のアウトリーチ活動に注力し、独りで悩みを抱え込まず、気軽に相談できる環境整備を進めている。早期発見・早期対応を目指し、心の健康を護る活動の具体的内容を紹介する。
12:40～13:40　昼休憩60分		
13:40 ～ 14:00	⑱社員が健康で活き活きとしている職場づくり 九州旅客鉄道㈱ 門司車掌区　区長　松尾 幸喜	ここ数年、職場として社員の健康意識の向上に取り組んでいる。その取り組みが功を奏し、社員間で徐々に「健康」に対する意識が広まりつつある。今年度はこれまでの取り組みを継続するとともに理学療法士の資格を持つ社員とも意見を交わし社員の健康維持の取り組みを推進してきた。

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

14:00 ～ 14:20	⑲メンタルヘルス管理職支援「しゃべり場」 ～対話で管理職の活躍最大化を目指す～ マツダ㈱　健康推進センター　保健師　長戸 紘子	管理職がいきいきと活躍し、自信をもって職場運営に取り組めることは、組織のワークエンゲージメント向上に不可欠であることから、メンタルヘルス管理職支援として①不調者への対応スキル向上②好事例・失敗事例の共有③相談しやすい関係構築を目的に、「しゃべり場」を企画実施。
14:20 ～ 14:40	⑳エイジフレンドリー補助金を活用した腰痛予防講習会と体力測定の実施報告 (医) 貴島会　ダイナミックスポーツ医学研究所 主任　春名 了輔	近年、労働者の高齢化に伴い転倒や腰痛により労働災害が増加の一途を辿っている。今回、中小企業1社の従業員に対して厚生労働省が施行しているエイジフレンドリー補助金を活用し、腰痛に着目した労働災害予防対策を目的とした取り組みを実施したので報告する。
14:40～14:50　休憩		
14:50 ～ 16:20	パネルディスカッション ストレスチェック制度義務化から10年　～50人未満事業場への対応を考える～ 座　長　北里大学　医学部　公衆衛生学　教授　堤 明純 パネリスト　㈱MOANA土肥産業医事務所　代表・産業医　土肥 誠太郎 東海旅客鉄道㈱　健康管理センター　東京健康管理室　主任臨床心理士　森脇 正弘 藤沢タクシー㈱　代表取締役　根岸 茂登美	ストレスチェック制度が義務化されて10年が経過。昨年はストレスチェック制度に関する検討会が開催され、50人未満事業場への義務化の方向が示された。そこで、事業場におけるストレスチェックの実施状況、今後、50人未満の事業場にいかにストレスチェックを導入していくかを話し合っていく。

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会 場　ATCホール　Cホール（O's南館地下2階）

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会 会場に
「ISO45001/JIS Q 45100認証取得の無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください。

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①リスクの芽を漏れなく摘み取る！リスクアセスメントのレベルアップに向けた諸活動紹介 ㈱クボタ　堺製造所　勤労部 安全衛生課　担当課長　山田 貴史	クボタグループでは安全に働ける職場の構築に向けて、「クボタグループ安全衛生基本理念」に基づき、重大災害リスク撲滅活動に全社で取り組んでいる。リスクの芽を漏れなく摘み取るために、危険源の同定リストの活用や第三者視点によるリスクアセスメント等の諸活動を紹介する。
9:50 ～ 10:10	②労働安全と品質安全を確保した職場の構築 ナブテスコ㈱　鉄道カンパニー 品質保証部品質管理課　永濱 竜二	自職場のみならず前後工程の連動した活動により、労働安全の向上による働きやすい職場づくりと品質安全の向上によるお客様への安全･安心の提供を両立させた職場を構築した活動である。
10:10 ～ 10:30	③基板ラック反転時の作業リスク低減 腰痛リスクを低減せよ！ ㈱小松製作所　生産本部　湘南工場　生産部 製造第一課　第一センタ　齊藤 俊介	人による基板ラック（重量最大10.2kg）の反転作業を繰り返し行っており、前かがみ姿勢に対して人間工学を勉強し、からくり機構を活用することで体格差や体力差を考慮した基板ラック反転台車を製作した。その結果、腰痛リスクを低減し誰もが安全に作業できる工程を確立した。
10:30～10:40　休憩		

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

10:40 ～ 11:10	特別報告 **ISO45001改訂のポイント ～どこが変わるの？ ISO45001 第2報～** 中央労働災害防止協会　認証事業執行責任者 安全衛生マネジメントシステム審査センター所長 ISO/TC283日本代表エキスパート　斉藤 信吾	ISO45001は2024年10月からISO/TC283にて改訂作業が進められており、2027年3月の発行を予定している。現時点における改訂版ISO45001の主要なポイントについて紹介する。
11:10 ～ 11:30	**④キヤノングループ独自のリスクアセスメントの取り組み** キヤノン㈱　人事本部 安全衛生部　安全衛生課　岩永 寛樹	国内各社でそれぞれに運用していたリスクアセスメントのルールをキヤノングループ共通の管理基準として新規に制定。網羅的かつ論理的に危険性・有害性を調査できるプロセス、および、職場での適切な運用を促進・サポートするための洗い出しシート、危険源確認リスト等も紹介。
11:30～11:40　休憩		
11:40 ～ 12:00	**⑤新たな視点で取り組む安全対策について** 西武鉄道㈱　工務部 飯能保線所　副所長　廣井 哲也	近年、鉄道事業の3大災害の1つである『触車災害』に繋がる恐れのある列車の非常停止が、複数発生しています。そこで、列車の非常停止を未然に防止するため、「新たな視点で取り組む安全対策について」紹介させて頂きます。
12:00 ～ 12:20	**⑥“当たり前リスク”を通じて残留リスク廃止への挑戦** ㈱クボタ枚方製造所　建設機械製造部組立一課LD組立RXライン　原田 哲	当職場は「作業者と家族が安心できる職場環境づくり」を目指し、“当たり前リスク”①長期間、改善出来ていないリスク②異常だが、いつも起きているので異常と感じられていないリスクの低減に取り組んできた。今回、所内の最優秀事例となった小集団活動の取り組みを報告する。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:40	**⑦職場経験３年未満社員への道工具教育とその成果** 東邦チタニウム㈱　茅ケ崎工場 環境安全部　主任　上條 隆史	2022年3月に全工場でJISQ45100の認証を取得。災害の分析、マネジメントレビューから災害の発生は職場経験3年未満である未熟練者の発生が約70%。特に道工具を間違った使用により災害が発生していることから机上教育から実践の道工具教育を開始。道工具による災害が減少傾向にある。
13:40 ～ 14:10	特別報告 **JISQ45100全社導入の推進者として「日本で取るならJISQ45100でなければならない」と思う理由** JX金属㈱　茨城事業所 環境安全部　日立担当部長　全 淳一	当社はOSHMSの構築と向上のため、2019年より国内全事業所で取得することとし、現在国内13拠点、海外7拠点へISO45001を導入し、現在も新たに加わったグループ会社の取得を進めている。導入に際し複数の認証種類（ISO、JISHA方式等）や認証会社を選定したが、日本におけるOSHMSは、JISQ45100に則り且つ安全衛生のプロフェッショナルでなければ正しく評価できないと判断し、国内13拠点はJISQ45100を中災防認証で取得することとした。その判断理由を、他のISOや他国の安全活動と比較しながら報告する。

中災防賛助会員　入会のご案内

賛助会員にご入会いただくことで各種サービスがご利用できます

- 「全国産業安全衛生大会」のご優待
- 教育研修・専門技術の利用が会員料金　など

これらのサービスは一例です。

ご入会手続きにつきましては、中災防賛助会員　で検索!

お問合せは　総務部　広報課　03-3452-6049　kaiin@jisha.or.jp

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

14:10 ～ 14:30	⑧新人研修の際に役立つウェルビーイングの活用法についての提案 ㈱ヴィッツ　統合管理室　室長　林 千奈津	新入社員を対象に、主観的・心理的ウェルビーイングに関する調査を継続的に行っている。入社直後および研修期間終了後（6か月経過後）の結果を分析した結果、成長の度合いや今後の課題が明確化された。今後予定の入社1年後の調査も加え、新人教育に活用する予定である。
14:30～14:40　休憩		
14:40 ～ 15:00	⑨特性を捉えたリスクアセスメントの実施による無災害職場の構築 日産自動車㈱　追浜工場 製造部車体課　照屋 将孝	安全活動としてルールを当たり前に守れる職場づくりに取組んでいる中、事前にリスクを洗い出す事ができず、付随作業である台車入れ替え中に災害が発生してしまった。作業毎の特性を捉えたリスクアセスメントの実施で、真のゼロ災職場の構築を目指す。
15:00 ～ 15:20	⑩浸水被害を教訓にした東川口駅における訓練と対策について 東日本旅客鉄道㈱　浦和統括センター 東川口駅　指導係　鬼塚 潔	東川口駅は地形的特徴により数年おきに駅舎が浸水するため大雨時には止水板を設置している。係員には訓練を通してこれまでの想定を超えることも想像し空振り覚悟で行動する重要性を共有し降雨時のリスクマネジメントを実践。設備も改良しつつ水害に強い駅をつくり上げている。
15:20 ～ 15:40	⑪人材育成とモバイル点検ツールを併用した災害防止取組 理研計器㈱　第三FE部 FE八課　課長　村川 智寛	弊社メンテナンス部門は客先に設置されたガス検知器を訪問点検する際、点検対象以外の検知器を操作して誤報を出す等のミスが発生していた。これを撲滅する為、人材育成の強化に加えてメンテナンス作業をアシストするモバイル点検ツールを導入し大幅な作業ミスの削減に繋げた。
15:40～15:50　休憩		
15:50 ～ 16:10	⑫全社横断で進めた機械動作部災害防止の取り組み 大日本印刷㈱　技術開発センター生産革新研究所 リスクエンジニアリング推進部 安全防火チーム　リーダ　渡辺 尚輝	機械動作部災害の許容不可能なリスクに対し、生産設備の安全対策を進めてきた。従来は対策を各事業部に委ねていたが、社内安全規格を制定し、本社リスクアセッサによるリスク評価/対策立案を進めることで、全社横断的に機械動作部災害リスクを低減した事例について報告する。
16:10 ～ 16:30	⑬315系電車の投入に伴う設備改良工事におけるリスクの排除 東海旅客鉄道㈱　静岡支社 静岡車両区　車両係　堀井 洵杜	新型車両である315系の投入に伴い、４カ月にわたる大規模工事を実施する必要があった。工事期間中の検査は、触車･転倒･墜落リスクの高い屋外検査の数が多くなる見込みであったが、屋外検査の低減や各リスクへの対策を実施し、無事故・無災害で完遂することができた。
16:30 ～ 16:50	⑭検圧ブロック 組立リスク低減活動 ～脱・思い込み！One teamで新工順確立～ ㈱小松製作所　粟津工場　生産本部粟津工場生産部 クローラ組立課　馬場 奈央	グループの安全活動方針である「ダイバーシティへの取組み」の一環として、6kg以上の片手保持作業及び120cm以上の作業高さの組立作業に対して、発想の転換による組立順序変更及び回転機構の治具を考案、負荷を大幅低減し、誰もが無理のない姿勢で作業できる職場を構築した事例である。

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	⑮リスクアセスメントは労働災害防止に効果があるか、その検証結果について タツタ電線㈱大阪工場 環境安全部　主任　月山 秀之	大阪工場にRA導入以降、RAを実施した83設備等において労働災害は2件、災害発生率2.4%で留まっており、RAは労働災害防止に確実に効果があることが検証され、業所内の理解もこれまで以上に深まった。
9:50 ～ 10:10	⑯リスクアセスメントの実効性を高めろ！ 知識付与と意識改革！階層別安全研修の紹介 東京電力パワーグリッド㈱ 業務統括室　安全マイスター　佐藤 健一郎	現場のリスクアセスメントが効果的に実施さていない現状が判明。原因を分析すると、教育内容にバラツキがある事と、安全に向き合う姿勢に悩みがある事を確認できた。そこで、教育資料の整備に安全の意識改革を組み込み、より実効性を高めた階層別安全研修を紹介する。

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

10:10 ～ 10:30	⑰検査場リスクの再考 ～安全対策に終わりはない～ 東急電鉄㈱　車両部 雪が谷検車区　技士　齊藤 香太	鉄道車両の整備では欠かすことのできない検査場に今回はスポットを当て、改めてリスクの見直しを行った。普段何気なく作業している場所にも多くのリスクがあることが再認識でき、区員全員がリスクに対して関心を持つことで職場内での安全意識の活性化につながった。
10:30～10:40　休憩		
10:40 ～ 11:00	⑱リスクアセスメント教育から学んだ災害「0」活動への取り組み 日産自動車㈱　栃木工場 第一製造部圧造課　工長　黒田 佑太	職場の過去の災害を振り返ると、リスク抽出不足による災害が発生しています。リスクアセスメント教育合格までの過程で学んだリスク抽出のポイントを現場で実践し、災害を未然に防ぐ活動へつなげていきます。
11:00 ～ 11:20	⑲HD325ホイストシリンダ脱着時のリスク低減 コマツカスタマーサポート㈱ 近畿四国カンパニー　姫路支店　谷口 和輝	拠点にHD325という大型のダンプトラックが50台近く配車されている。土砂積込み、排土を行うベッセル（荷台）を上下する為のホイストシリンダは交換の際にマニュアルが無く、大重量でクレーン且つ高所での作業となる。それら危険な作業を廃止する治具を製作した。
11:20 ～ 11:40	⑳鴨宮保守基地における労災（触車）リスク低減について 東海旅客鉄道㈱　新幹線鉄道事業本部 浜松レールセンター　施設技術係　鈴木 勇太	鴨宮保守基地でのレール削正車の清掃作業における、触車リスクの完全排除を行った。留置箇所で清掃作業を行わなければいけないという固定概念を覆し、清掃作業を行う場所を変更した。鴨宮保守基地で取り組むに当たり、関係箇所と連携し取り組んだ。
11:40 ～ 12:00	㉑検査作業のリスクアセスメントによる危険要因の排除 川崎重工業㈱ 明石工場　航空宇宙システムカンパニー 航空エンジンディビジョン　エンジン生産総括部 明石製造部 明石検査課　班長　小西 義紀	ガスタービンエンジンの外観検査業務から危険有害要因を抽出するため小集団グループを結成し、様々な視点からリスクアセスメントを実施した。特に『新規プロジェクトの生産開始前に危険なリスクを先取り』した活動では、作業者が安全に作業出来る環境整備へ大きく貢献出来た。

ダイバーシティ等分科会

会 場　**ATCホール　Cホール（O's南館地下2階）**

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

12:10 ～ 12:30	①多様なニーズに応えるバリアフリー：聴覚障がい者と車いすユーザーの視点からの考察 トヨタ自動車㈱　安全健康推進部 健康運営室　健康運営2G　木村 福美	「障害者雇用促進法」により、当健康支援センターにおける障がい者の受診者数は今後1.5倍に増加見込みである。車いすユーザーの物理的バリアの除去と優先席の確保。ツールを活用した学習会の言語化を行い聴覚障がい者の健康学習会理解度を有意に上昇できたため報告する。
12:30～13:30　昼休憩60分		
13:30 ～ 14:30	講演 ハラスメント対策の鍵になるのは第三者？ －アクティブ・バイスタンダーの養成に向けて （一社）UNLEARN　理事、立教大学大学院 社会デザイン研究科　特任准教授　西井 開	ハラスメントが起きた時、被害を受けている側が抵抗することは非常に困難であり、その場にいる第三者＝バイスタンダーの存在が防止に向けて大きな意味を持つ。本公演では、バイスタンダーがハラスメントに介入する際のハードルや、適切に介入するための方法をテーマにする。
14:30～14:40　休憩		

ダイバーシティ等分科会

14:40 〜 15:00	②外国人技能実習生制度の有効活用と、相乗効果 〜共に乗り越えた壁〜 日新運輸工業㈱　銅板製造部 第二製版課　主任　池内 裕也	「技能実習制度の導入による人材不足の解消」 言葉の壁による教育・指導をどのように解決したか？ 「活躍の場を広げる為に」 「技能実習生の技能習得とオペレーション業務への挑戦」 プロパー社員との協働による「相乗効果」 今後に於ける計画的な雇用形態の確立と企業利益の追求
15:00 〜 15:20	③D&I　女性エンジニア登用・エンジニアの育休取得に向けて 理研計器㈱　エンジニアリング部 安全管理課　平野 美優	フィールドエンジニア（FE）業務は、様々な危険・有害性を伴っているため、女性FEの消極的配置などが見られた。そこで、女性FEと所属責任者との相互理解を図るための意見交換を実施し、女性FEの適正配置における急所を現場配置ガイドとして作成した経緯を紹介する。
15:20〜15:30　休憩		
15:30 〜 15:50	④治療と仕事の両立支援 〜社内ピアサポートの活動報告と今後の展望〜 ブラザー工業㈱　人事部安全防災グループ健康管理センター　保健師　西村 夏弥	高齢化や女性就労率の増加に伴う健康課題に対応するため弊社は「疾病予防」「就業サポート」「支えあう風土づくり」の3つの柱で支援を行っている。2020年に社内ピアサポートを設立し38名が活動。座談会や経験談を語る会、体験記を通じて理解と支えあう風土を醸成している。
15:50 〜 16:10	⑤女性活躍推進の現場から見える課題 〜管理者アンケートの計量テキスト分析を通じて〜 西日本旅客鉄道㈱ 金沢健康増進センター　保健師　水貝 聡美	指導者、管理者が「女性社員の健康上の問題やマネジメント関係で対応に困っていること」について、社内の女性活躍推進に関する研修後にアンケート方式で調査し、その結果を計量テキスト分析ソフトウェアKHCoderを用いて分析を行った。
16:10 〜 16:30	⑥清掃資機材を利用した、清掃業務における職場環境の改善 東急プロパティマネジメント㈱ ビルマネジメント事業本部　BM事業部 施設サービス部　沿線サービス課　山田 玲偉	清掃業界の、益々の高齢化ならびに労働人口の縮小が進む中で、先々の雇用縮小が見込まれる。その中で、清掃資機材の工夫や、先進資機材を導入する事により、作業性の効率化を図った。結果、従業員の労働負荷が軽減されたことにより安心安全で健康な職場環境となった。

ゼロ災運動分科会

会 場　**ATCホール　Bホール（O's南館地下2階）**

9月11日（木）　プログラム（9：00開場）

9:30 〜 9:50	①TBM／KYの定着に向けて 〜やめようぜ恰好だけの安全活動〜 日本製鉄㈱　瀬戸内製鉄所広畑地区　製鋼部 製鋼工場　精錬課　電気炉職場　南木 章吾	安全な作業を実現するためには、作業前や変化点におけるTBMやKYが重要となる。従来から実施タイミングや様式を定め取り組んできたが、さらなる充実を目指し、スマートフォンを活用したTBM／KYの実施率向上施策と作業者のレベルアップ施策について報告する。
9:50 〜 10:10	②ヒヤリハット活動を継続的に行うための仕組みつくり 東急電鉄㈱ 運輸部あざみ野駅　駅務係　小笠原 秀平	ヒヤリハット活動のスタート当初は、活動の認知度や従業員の意識も高いため、報告や一定の対策については上手くいくが、時間の経過とともに尻すぼみになるケースが少なくない。そこで、従業員の意識を継続する仕組みを構築することで労働災害防止を図る必要性があると考えた。
10:10 〜 10:30	③会社生活での「人によるポカ」を減らし「安全に作業する為の当たり前」を知る活動 トヨタ自動車九州㈱　塗装部 塗装品質改善課　職長　髙野浦 真悟	当社では「凡事徹底」を軸に、安全な「人と工程」づくりを重点取組みとし、災害未然防止活動を強化。今年は更に全社一斉に稼働を止め、安全時間を設定。人のポカを減らす為に「POKA TUBE」を開設し、全員が共通して安全意識・感度を上げる工夫を行ってきた活動を紹介。
10:30〜10:40　休憩		

ゼロ災運動分科会

10:40 ～ 11:00	④遠隔コミュニケーションで育むゼロ災運動 ㈱レールソリューションズ　チームリーダー 須藤 政史	この数年で若い新入社員が増えてきた。また、列車見張りの運用ルールが違う複数の鉄道会社の現場を請け負うことになった。人数及び現場数も増える中、現場のゼロ災推進のために、リーダーとしてメンバーとどのようなコミュニケーションをとっているかを事例発表する。
11:00 ～ 11:20	⑤形骸化したKY活動からの脱却 ～現場主体のKY活動～ サンデン・リテールシステム㈱　総務人事本部　総務部 広報・サステナビリティ推進課　主任　石橋 燎	創立以来積極的に安全活動に取り組んできた。しかし、長年の活動の結果一定の成果を確認できているものの活動が当たり前となり、形骸化を否定できない状態となっている。本活動は原点に立ち直り、且つ現代の技術を生かし、時代に合ったものに昇華させる事を目指した活動である。
11:20 ～ 11:40	⑥指差し呼称の定着化の取り組みについて 日揮触媒化成㈱　北九州事業所　環境安全管理部 北九州環境･安全･保安グループ　鳥越 隆行	2021年より指差し呼称の習慣化をテーマに取り組み、横断歩道での実施率は向上したが、実際の作業での実施率は少なく更なる工夫が必要となった。そのため、2024年より実際の作業を想定した体験ツールを用いた教育等を行い、現場作業での実施率向上に取り組んだ活動である。
11:40 ～ 12:10	運動展望 これからのゼロ災運動を展望する 中央労働災害防止協会　教育ゼロ災推進部ゼロ災推進課　次長　武井 勝一 1．ゼロ災運動とは（人間尊重の理念、明るくいきいきと働ける職場づくり人づくり） 2．これからのゼロ災運動（３つの理念「ゼロ・先取り・参加」） 3．健康づくり（高年齢労働者と転倒・腰痛災害） 4．働きがい（ワークエンゲイジメント） 5．職場づくり、人づくり（リーダーシップ、コミュニケーション）	
12:10～13:10　昼休憩60分		
13:10 ～ 13:30	⑦繋いでいく安全職場の取り組み 日産自動車㈱　栃木工場 第三製造部第二車軸課　工長　倉澤 将	昨今、熱処理工程の安全成績はゼロ災を継続できている職場です。FY22に発生した重大ヒヤリを契機に、係内の安全意識改革による取り組み内容と、このゼロ災職場を次世代に継承・維持していくための今後の取り組みを含めた内容のリスクマネジメント活動を紹介します。
13:30 ～ 13:50	⑧フォークリフト重大ヒヤリハット撲滅活動 ㈱北川鉄工所 キタガワマテリアルテクノロジーカンパニー 製造統括部　総務課　小島 舜	フォークリフト重大ヒヤリハット発生が過去年間20件以上発生。不具合発生毎に、原因対策を検討し報告書を提出。しかし発生抑制に至らず。2022年よりドラレコ導入・真因追及会議を実施。事実に基づく対策を繰り返すことで、2024年は半減以下に抑制できた。
13:50 ～ 14:10	⑨見られて気付くから見て気付く　新手法 MY KYT 有楽製菓㈱　札幌工場　生産課　主任　坪山 靖英	KYTを『今・自身を見て・KYTする』という手法に変え『MY KYT』と銘打って行った活動。より安全でリスクのない環境・安全を守るための個人の意識向上を目的とし考案。従業員が自らの業務において危険を察知し適切な行動を取ることができるようになり職場事故率は低下。
14:10～14:20　休憩		
14:20 ～ 14:40	⑩非定常作業前KYTの実践 ㈱東研サーモテック 寝屋川工場　工場長　山本 喜久治	金属熱処理会社のゼロ災運動を報告①始業前KYTを愚直に継続（A1判の用紙で10分5人以下の少人数実施、管理者が率先してコメント参加）②非定常作業におけるインシデント事故を受け、非定常作業前KYTを開始③寝屋川工場製造課チームによる非定常作業前KYT実技を予定
14:40 ～ 15:00	⑪ゼロ災達成に向けた取組事例 日本車輌製造㈱ 鉄道車両本部　品質保証部　増田 賢	「安全は全てに優先する」のスローガンのもと、日々、安全活動を継続しているところではあるが、労働災害根絶を目指し、改めて取り組んだ全員参加の「指差喚呼」活動、「ヒヤリハット」の危険分析に基づくリスク低減活動、３S活動、安全教育等について報告を行う。
15:00 ～ 15:20	⑫危険感受性の向上と危険の可視化による災害防止 小田急電鉄㈱　大野乗務所　乗務助役　加瀬 晴大	当乗務所で発生する労働災害は不注意や突発的要因が大半を占めている。安全安定輸送を担う乗務員に求められる「危険感受性」を更に高めることが必要であることから、「KY訓練による意識向上策」や「危険の可視化」によるリスク低減策について取り組んだ内容と成果を紹介する。

ゼロ災運動分科会

15:20～15:30　休憩

15:30 ～ 15:50	表彰式 ・ゼロ災運動推進感謝状 ・ゼロ災運動標語 ・ＫＹＴイラストシート	ゼロ災運動の普及、推進に積極的に取り組んでいる事業場・個人団体に対してゼロ災運動推進感謝状を贈呈する。また、全国ゼロ災運動推進協議会が募集した、ゼロ災運動の標語及び危険予知訓練（KYT）イラストシートの優秀作品への表彰を行う。

15:50～16:00　休憩

16:00 ～ 17:00	講演 **行動を変える心理学** 大阪医科薬科大学 看護学部　教授　飛田 伊都子	この講演では、行動分析学という心理学を紹介し、産業現場における安全行動を促進するための活用方法について解説します。実際の事例を交えながら、分かりやすく説明することで、人の行動を変える意外な方法を知っていただきます。この講演を通じて、今後の行動の見方が大きく変わることでしょう。

安全管理活動分科会③

会 場　ATCホール　Bホール（O's南館地下2階）

9月12日（金）　プログラム（9：00開場）

9:30 ～ 9:50	①サンゴバングループEHS Dayと安全衛生推進活動 サンゴバン㈱　機能樹脂事業部 諏訪工場　EHS・総務　マネジャー　平川 拓洋	サンゴバングループでは、毎年世界共通のEHS Dayが設定される。諏訪工場では、この日を活用して、防災訓練、特殊な設備の点検、救命規則トレーニング、安全（危険）体感などを導入している。全員参加により、工場内のリスクの認識と対策に関する理解を深めることができた。
9:50 ～ 10:10	②「アルコールの予備知識」と題した飲酒運転根絶への教育活動 ㈱オートテクニックジャパン　管理統括部 総務部　安全衛生課　主事　岩城 敏行	社内でプライベートによる酒気帯び運転が発生してしまった。モビリティに携わる企業として「飲酒運転、酒気帯び運転」は厳罰化されているが、アルコールに対する個人の知識や知見は様々だった。そのことから、第三者機関の資格を取得し飲酒運転根絶への教育構築活動をおこなった。

10:10～10:20　休憩

10:20 ～ 10:50	特別報告 安全づくりは人づくり ～心のキャッチボールで人材育成 ㈱レールソリューションズ 代表取締役社長　竹内 千里	小規模企業である我が社には、働くことに悩み、コミュニケーションに課題を抱える若者たちがやってくる。自信を持てなかった彼らが、「日本一の安全」を合言葉に、チームでの声掛け、助け合い、励まし合いを通じて、列車見張員として成長していく姿を紹介する。
10:50 ～ 11:10	③イオン・イオンリテールと日本理学療法士協会との連携による転倒労災防止等の取り組み （公社）日本理学療法士協会　副会長　佐々木 嘉光	イオン（株）、イオンリテール（株）と日本理学療法士協会が共同で転倒労災防止等を目的に健康増進モデルを構築。体力測定等の実態調査と理学療法士監修の1分間体操の導入、予備検証を実施し、転倒頻度の減少と労働安全性向上を確認した。転倒予防策の継続的実施が課題である。

11:10～11:20　休憩

11:20 ～ 11:40	④大規模な事業所再開発に伴う効果的な安全管理への挑戦 ㈱ダイフク　滋賀事業所　安全衛生管理本部 安全推進部　滋賀グループ　北田 幸敬	2022年より大規模な事業所再開発がスタートした。約120万㎡の敷地内で生産活動と並行して工事が行われ、従業員と工事請負関係者等が混在するなか、この地で働く全ての人に決して誰一人ケガをさせない決意のもと、効率的な安全管理を模索し挑戦する活動について報告する。
11:40 ～ 12:00	⑤令和、これからの安全活動「ハイブリット安全」について 藤田労働安全コンサルタント事務所 （一社）日本労働安全衛生コンサルタント会 大阪支部会員　支部長　藤田 一彦	経営者をはじめ安全に従事する関係者の尽力されているのにも関わらず労働災害は多くが平成に起きた災害の再発である。令和のこれからの安全は、この労働災害に照準を合わせた取り組みがハイブリット方式の安全で、ノンテクニカルスキルをテクニカルスキルに組み合わせた内容。

安3 安全管理活動分科会③

12:00 ～ 12:20	⑥列車乗務員による睡魔対策「バーチャル森林浴」ができるまで 九州旅客鉄道㈱ 博多運転区　運転士　土佐谷 有希	運転士は安全を守ることが最大の使命であり、重大事故防止のための眠気対策は長年の課題である。眠気防止には仮眠が有効な対策だと考えられており、よりリラックスした空間で体を休めることが高い効果を得られるとのアドバイスを頂きリラックス効果の高い仮眠室の改修に着手した。
12:20～13:20　昼休憩60分		
13:20 ～ 13:50	特別報告 感電事故を教訓とした安全活動 ～「危険管理」への転換～ ㈱NAAファシリティーズ 安全・品質管理部　部長　佐久間 好夫	2016年感電死亡事故から、従来ルールや手順に頼るヒューマンエラー対策の限界を知る。2020年ヒヤリハット事例を題材に「安全ブック」を作成、以降「危険管理」へ転換。情報共有の仕組み、リスク・主体性尊重のルール、異業種間の情報交換等、「組織が人を守る」安全文化の醸成を推進。
13:50 ～ 14:10	⑦ターミナル駅前交差点上空橋桁架設工事の安全 ～関係機関協議と第三者対策の記録～ ㈱大林組　広島支店 広電広島駅JV工事事務所　所長　中垣 真一	ターミナル駅広島駅前の交差点で通行規制・時間短縮の課題がある中、上空橋桁架設をユニットキャリアを用いて送り出し架設を行った。送り出し架設は長さ38m、総重量362ｔ、制限7時間の難工事である。ここでは関係機関協議、工法改善、第三者への安全対策について報告する。
14:10～14:20　休憩		
14:20 ～ 14:40	⑧触車事故防止に向けた取組み ～自分と仲間の命を守る～ 東日本旅客鉄道㈱　東北本部 仙台保線設備技術センター 郡山保線センター　主任　佐々木 竜太	JR社員が巡回を行う際は、列車見張員配置と列車接近警報装置等を活用して保安体制を確保しているが、列車が進入しない措置はとられていないことが多い。今回、社内で連続的に発生した待避誤りを他山の石とし、ソフト面・ハード面の両面から巡回時の安全性向上に努めた。
14:40 ～ 15:00	⑨実車を用いた列車防護訓練の実施 ～乗務員の目線に立ち列車防護の重要性を再理解～ 九州旅客鉄道㈱ 鹿児島工務所　土木　指導係　梅木 啓太郎	線路付近で異常が発生した場合に、従事員として速やかに列車防護を行うことができるよう、実際の車両を用いて列車防護訓練を実施した。また、列車防護の様子をカメラ撮影し関係者へ共有した。これらにより、改めて列車防護に係る重要性を従事員へ教育することができた。
15:00 ～ 15:20	⑩中央本線 下り線 大月構内 保守誤り事象から始まった安全の取り組み 東日本旅客鉄道㈱ 大月保線技術センター　係員　杉原 開斗	鉄道三大労働災害「感電・墜落・触車」より「触車」を取り上げる。当センター管内で過去に発生した保守作業誤り事象を契機とし、当時の対策を風化させないよう触車事故防止教育を継続してきた。昨今の働き方改革を鑑み、安全性と効率性を検証したルール見直し事例を紹介する。
15:20～15:30　休憩		
15:30 ～ 15:50	⑪危険感受性を育てよう ～災害を起こさないための人財育成～ 日産自動車㈱ 追浜工場　工務部工務課　小川 大輔	設備の保守作業を行う中で若年層の危険感受性が低いという分析結果より、感受性を向上させるにはリアリティな安全活動が必要と判断した。作業指揮する立場を体感させ安全に作業を進めること、共同作業者に注意する経験を訓練を行い、危険感受性の向上を行った。
15:50 ～ 16:10	⑫想定外を想像することで事故を未然に防ぐ取り組み 東日本旅客鉄道㈱　高崎支社 高崎電力設備技術センター　指導係　侭田 陽平	私たち鉄道メンテナンスに従事する社員は、突然発生する事故を想定し、それに対する備えを常に考えておかなければならない。ここでは、私たちが取り組んだ「想定外を想像することで事故を未然に防ぐ取り組み」を紹介する。
16:10 ～ 16:40	特別報告 リアルとデジタルを融合した安全の取り組み ～全社をネットワークで繋ぐパトロール～ ㈱テツゲン　安全危機対策本部　安全推進部長 技術部　担当部長　渡邊 誠司	安全活動における現場とデジタルの融合で、希望者は誰でも参加が出来る新たなパトロールを開始した。参加者が増加し、各部署の取り組み内容の全社共有や自職場メンバーだけでは常態化し、気づきにくいリスクの発掘に寄与するなど一定の成果が得られたので、この取り組みを紹介する。